



"Welcome to
the BERNINA
family"

H. P. ウルチ
代表取締役社長
ベルニナミシン株式会社

BERNINA®

このたびは、ベルニナミシンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。私共のミシン作り100年を超える歴史を通じて、お客様一人一人に満足していただくことを、最大の目標にしてまいりましたが、今現在も尚、スイスの優れた伝統技術、未来志向のソーイング・テクノロジー、そして他に類を見ない程行き届いたサービスをお届けすることを常に心がけています。今回お届けするベルニナミシンは、お客様皆様の個々のニーズに対応できる、かつてない、新しいタイプのミシンです。いろいろなミシン用付属品に加え、実用的でオリジナルなアイデアを満載して発行されるベルニナのソーイングマガジンなども、必ずや皆様にご満足いただけるものと確信しております。それでは、ベルニナミシンでクリエイティブなソーイングを、心ゆくまでお楽しみ下さい。

www.bernina.com
Fritz Gegauf Ltd. • BERNINA Sewing Machines • CH-8266 Steckborn/Switzerland

030529.53.10_0401_a135 145_JP

安全にご使用いただくために

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な遵守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

また、ご使用前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してから、ご使用下さい。

当製品をご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。



感電、火災の恐れがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1. プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。
3. 電球の交換時には、必ずプラグをコンセントから抜いてください。電球は12ボルト／5ワットの純正品をご使用下さい。

危険



感電、火災、けがの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. おもちゃとして絶対にご使用にならないで下さい。また、小さなお子様の近くでのご使用時は、特別の注意をお願い致します。
2. この説明書に記載の内容に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社が推奨する付属品のみをご使用下さい。
3. 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい。
 - ・ ミシンやフットコントローラーのコードやプラグに傷があるとき。
 - ・ ミシンが正常に作動しないとき。
 - ・ 落としたり、損傷したとき。
 - ・ 水の中に落としたとき。

このような場合には、お近くのお買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。

4. ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使用しないで下さい。モーターの過熱の原因となります。

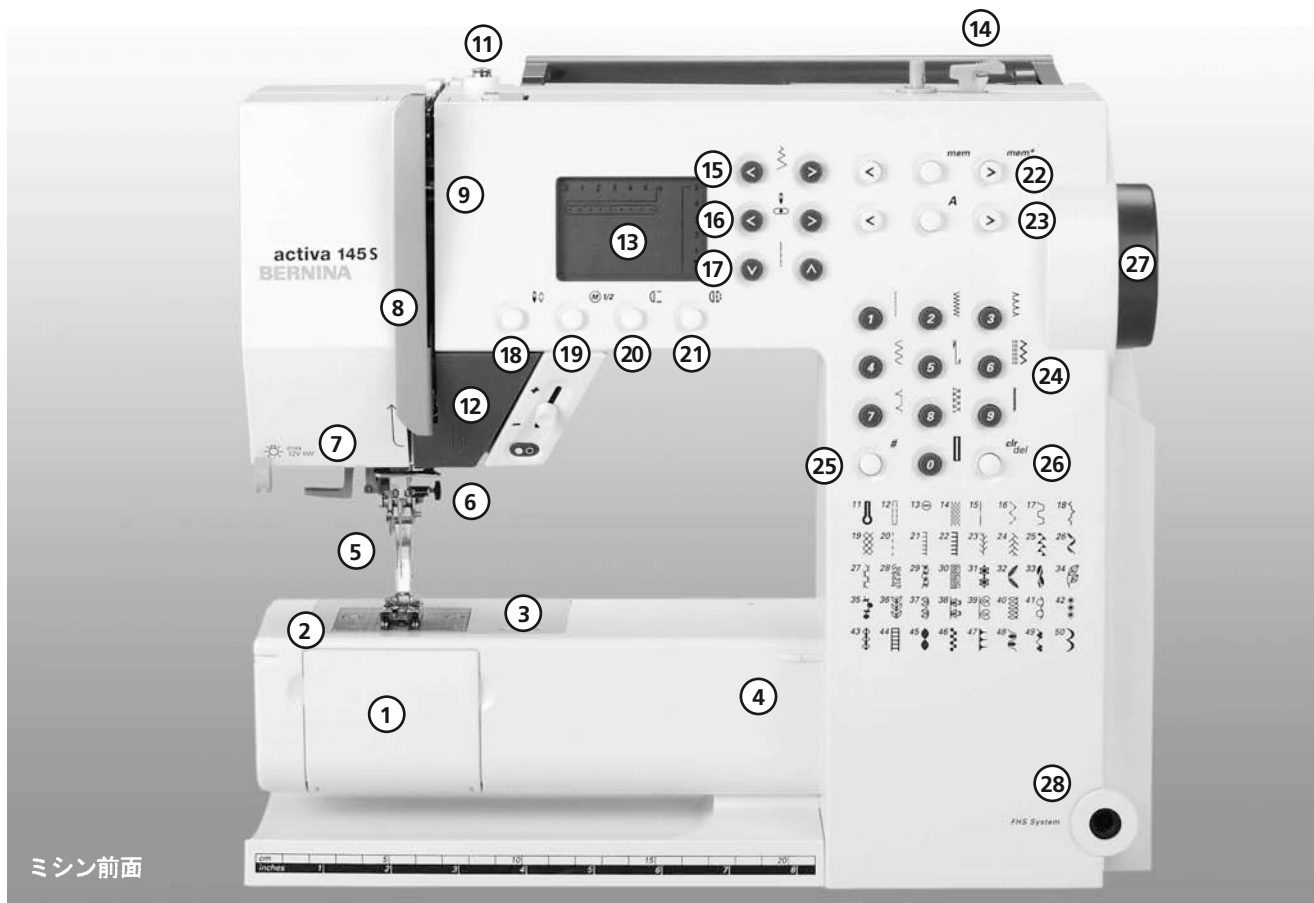
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。
6. 常に当製品専用の針板をご使用下さい。まちがった針板のご使用は、針折れを起こします。
7. 曲がった針は使用しないで下さい。
8. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。
9. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切ってください。
10. ミシンカバーを外したり、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
11. ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
12. 戸外では使用しないで下さい。
13. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では、使わないで下さい。
14. プラグをコンセントから抜く前に、必ずミシン本体の電源を切ってください。
15. プラグをコンセントから抜く場合には、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。
16. 以上の使用方法を遵守しないために生じた損害に対しては、いかなる場合も当社は責任を持ちませんので、ご了承下さい。

当製品を安全にご使用いただくために、この説明書は大切に保管して下さい。



説明書の保管

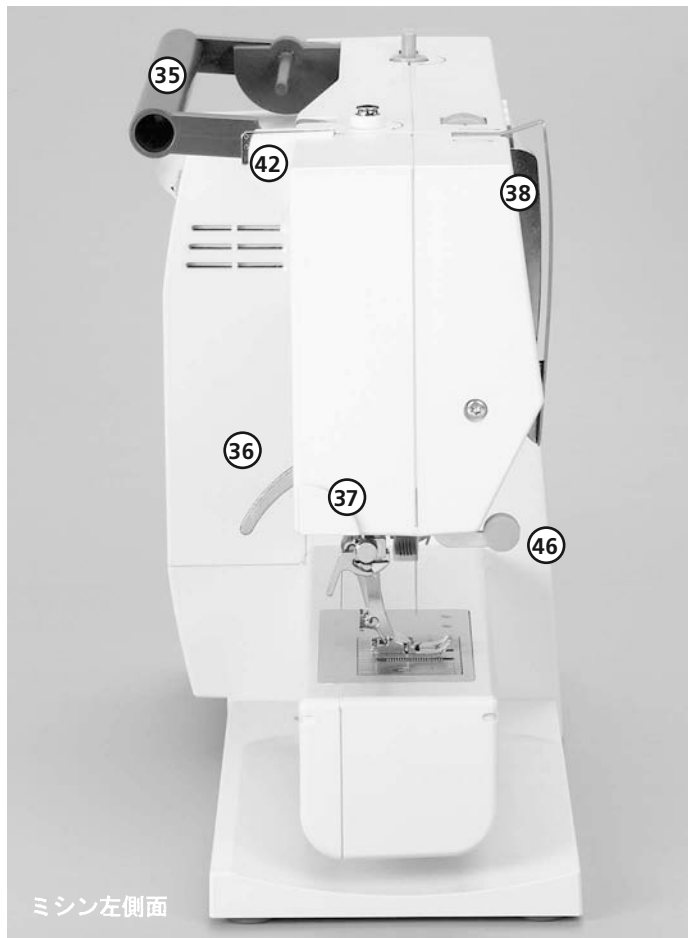
各部の名称



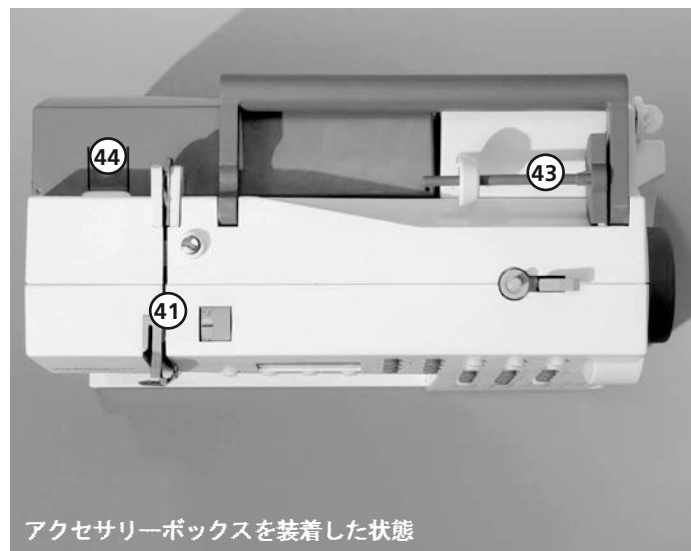


- | | |
|---------------------|-----------------------------------|
| 1. 釜カバー | 25. #ボタン |
| 2. 針板 | 26. クリヤー・削除ボタン |
| 3. アタッチメント用カバープレート | 27. はずみ車 |
| 4. ソーイングテーブル取り付け用突起 | 28. 膝押え上げレバー用差し込み
(別売りオプション機能) |
| 5. 押え金 | 29. 送りバランス微調節つまみ |
| 6. 針止め | 30. 電源スイッチ |
| 7. 糸ガイド | 31. 電源プラグ差し込み |
| 8. 天びん安全カバー | 32. 送り歯ドロップ操作ボタン |
| 9. 上糸案内 | 33. フットコントローラー用コンセント |
| 10. ダイヤルテンション | 34. 垂直糸立て棒 (折りたたみ式) |
| 11. 下糸巻糸案内 | |
| 12. 針元返し縫いボタン | |
| 13. 液晶画面 | |
| 14. 自動下糸巻き装置、糸切り | |
| 15. 振り巾調節ボタン | |
| 16. 針基線選択ボタン | |
| 17. 送り調節ボタン | |
| 18. 針停止位置選択ボタン | |
| 19. 1/2 スピードボタン | |
| 20. 一模様縫いボタン | |
| 21. 模様反転ボタン | |
| 22. メモリーボタン (mem) | |
| 23. アルファベット選択ボタン | |
| 24. 模様選択ボタン | |





- 35. キャリングハンドル
- 36. 押え上げレバー
- 37. 糸切り
- 38. 上糸天秤
- 39. 縫い縫い用アクセサリー取付け穴
- 40. アクセサリーボックス取付け用フック
- 41. 上糸テンションディスク
- 42. 後部糸案内
- 43. 糸立て棒（水平）
- 44. アクセサリーボックス
- 45. 上糸系通し機
- 46. ソーイングレンズ取付け腕（オプション）



アクセサリ

ミシンカバー

- ・ほこりや汚れから守ります。
- ・アクセサリを収納できます。

ご注意:

ミシンカバーとアクセサリボックスはミシンと一緒に梱包されています。

ミシンをご使用にならないときは、カバーをしてミシン本体を誇りなどから防いでください。

フットコントローラー、電源コード、ソーイングテーブル、そして説明書はミシンカバーのポケットに収納します。



ソーイングレンズ

針元で縫い目を大きく拡大するソーイングレンズ(別売り)のご使用をお勧めします。

ソーイングレンズはベルニナ正規販売代理店でお買い求め下さい。

ご注意:

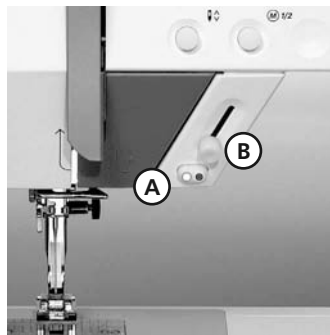
ソーイングレンズをご使用にならない場合は、怪我などを防止するために、必ず丸いグレーのズ用取り付け金具カバーを装着しておいて下さい。

標準アクセサリー*

- ・ボビン5個 (一個はミシンに装着)
- ・標準針セット
- ・シームリッパー
- ・小型ドライバー
- ・特殊L型レンチ
- ・特殊ドライバー
- ・ブラシ
- ・布ガイド
- ・高さ調節板
- ・糸こまカバー3種類
- ・糸こまクッション
- ・標準押え金 No. 1
- ・オーバーロック押え No. 2
- ・自動ボタンホール押え No. 3A
- ・ファスナー押え No. 4
- ・まつり縫い押え No. 5
- ・繕い縫い押え No. 9
- ・バッヂワーク押え No. 37 (145 型のみ)
- ・油さし

*アクセサリーの仕様は国により異なります。33 ページの押え金の説明をご参照下さい。

手元スタート・ストップ・コントローラー (オプション)



手元スタート・ストップ・コントローラーを使うと、指先でミシンをスタート、またはストップさせ、スピードも調節できます。

- ・ボタンBをスライドさせて、最高スピードを設定します。
- ・ボタンAを押すとミシンがゆっくりスタートして、設定したスピードまで徐々に加速します。
- ・ミシンを止めるには、ボタンAを押します。



ご注意:

フットコントローラーが接続されているときは、手元スタート・ストップ・コントローラーは機能しません。

ソーイングランプの交換

・アーティスタ2000にはインバーター蛍光灯ソーイングランプが取り付けられており、長時間蛍光灯の交換なしでご使用いただけます。

ご注意

交換に当たっては、必ず正規販売代理店にご相談ください

「安全にご使用頂くために」の項をご参照下さい。

アクセサリボックス



取り外す

- ・アクセサリボックスのキャッチAを押えつけながら、
- ・アクセサリケースを後ろへ倒して外します

アクセサリボックスを使う

- ・ボックス下部の折りたたみ式脚を開いて立てて使います。

アクセサリを収納する

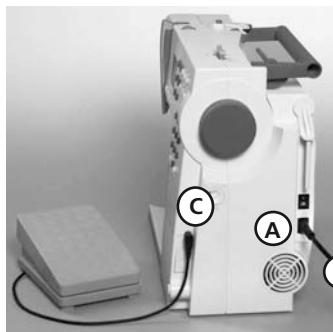
- ・アクセサリボックスはマシンに取付けられています。アクセサリはビニール袋に入っています。

- ・アクセサリボックスには押え金の収納ハンガー(E)、引き出し(B、C)、ボビン収納ハンガー(D)が装着されています。
- ・ハンガーは別売りオプションで追加できます。
- ・ボビンを収納するには各ボビンをDへ押し込みます。
- ・取り出すには手前のレバーFを下へ軽く押すとボビンが転がり出てきます。
- ・押え金はハンガーEへ吊り下げるように収納します。自動ボタンホール押え3Aは写真のGに収納します。
- ・針セットはHに収納します。

アクセサリボックスをマシンに取付ける

- ・まずドアを閉じます
- ・アクセサリボックスの折りたたみ式脚を収納します。
- ・押え上げレバーを下げます。
- ・マシンの後ろから押え上げレバーをアクセサリボックスの左ドアの溝に合わせてアクセサリボックスを装着します。

電源コード



電源コード

- ・ プラグAをマシンに接続し、
- ・ プラグBを電源に差込みます。

フットコントローラー用コード

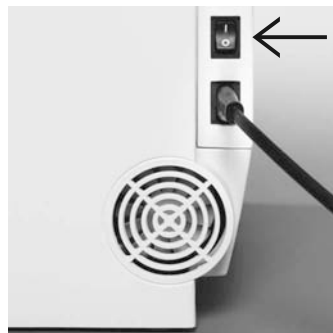
- ・ プラグCをマシンに接続します。



フットコントローラーは、縫うスピードを調節します。

ペダルを踏んでスピードを調節します。

電源スイッチ



電源スイッチは、マシンのはずみ車の側にあります。

《1》の場合、スイッチはオンになっています。

《0》の場合、スイッチはオフです。

ソーイングランプは、電源スイッチのオン・オフで点灯・消灯します。

「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。



電源コードを収納する

- ・ フットコントローラーの裏側に巻き取り、
- ・ プラグは、波形隙間に差し込みます。

ご使用には：
電源コードを巻き取り部から取り出して使います。

ソーイングテーブル



作業スペースを広げます。

取付ける

- ・ 針と押え金を上げます。
- ・ フリーアームにそって、強く押し込んで固定します。

取り外し方

- ・ 針と押え金を上げて、
- ・ 左方向に強く引いて
- ・ 取り外します。

定規

テーブル上の定規の〇は、直線縫いで針基線が中央を基準としています。

布ガイドを使う

- ・ テーブルの手前裏側の溝に沿って、右又は左方向からスライドさせて差込みます。
- ・ 布ガイドを使うと、テーブルの巾一杯に布をガイドすることができます。
- ・ テーブル取付け、又は取外し時に必要ならば押え金も外します。

膝押え上げレバー (別売りオプション)



取付ける

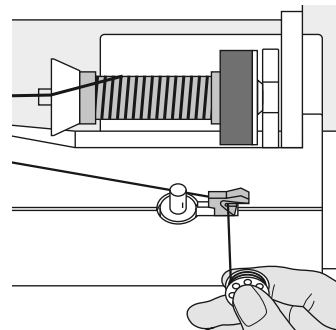
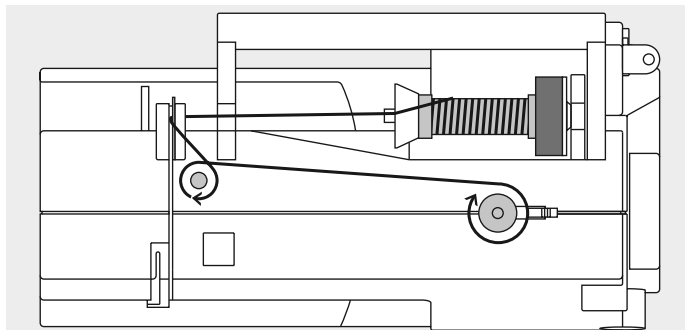
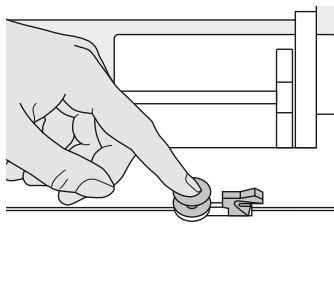
レバーの差し込み口は、ミシンの土台の前下方右にあります。

レバーの角度は、調整できますので、最寄りのお買い上げ店にご相談下さい。

膝押え上げレバーを使う

- ・ レバーを右に動かせば、押え金が上がります、
- ・ 同時に送り歯が下がります。
- ・ そのままフットコントローラーを踏むと、送り歯が自動的に上がって縫いだします。

下糸を巻く



下糸を巻く

- ・電源スイッチをオンにします。
- ・空のポビンを糸巻き軸にセットします。

ご注意：

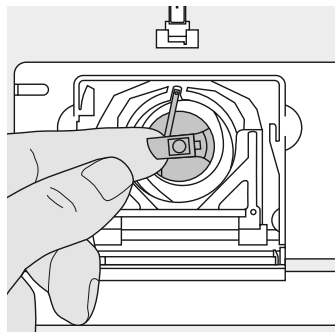
折りたたみ式の垂直糸立て棒（15ページ参照）を使って糸巻きをする時はスピードを抑え気味にして下さい。

- ・糸をまず下糸巻き糸案内に、時計回りにひと巻きし、空のポビンに糸を数回巻きつけ、糸巻き用の糸切りで余分な糸をカットします。
- ・ポビン押えをポビン側に倒します。
- ・フットコントローラーを踏み込みます。
- ・ポビンが一杯になれば、モーターは自動的に止まります。
- ・ポビンを外します。

糸切り

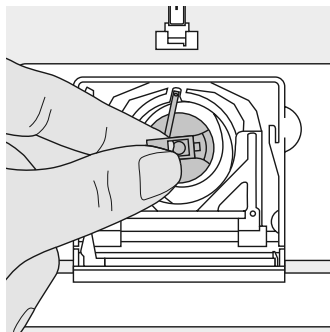
- ・下糸巻き糸切りで糸を切ります。

ポピンケース



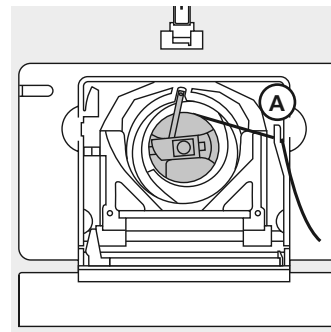
ポピンケースを取り出す

- ・ 針を上へ上げ、
- ・ 電源をオフにします。
- ・ 釜カバーを開け、
- ・ ポピンケースの爪の部分を左手でつまんで、
- ・ 取り出します



ポピンケースを装着する

- ・ 爪の部分を左手でつまみ、
- ・ つのを上向けて、
- ・ 釜に差し込みます。
- ・ カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ・ 釜カバーを閉めます。



下系カッターで糸を切る

- ・ ポピンケースを装着したら、
- ・ 糸切りAに、余分の糸を当てて、切ります。
- ・ 釜カバーを閉じます。

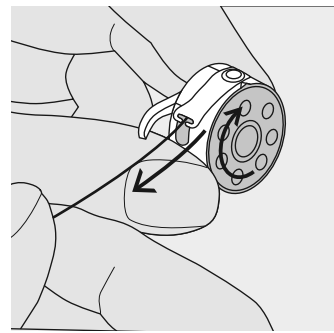
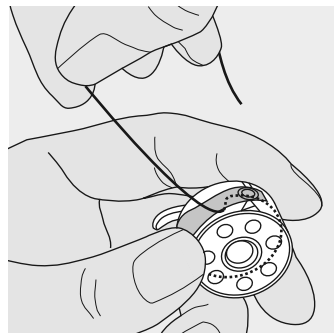
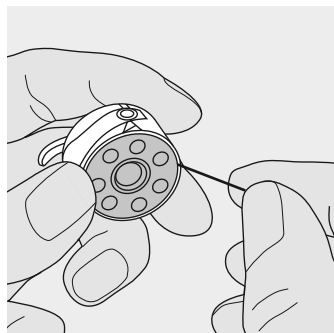
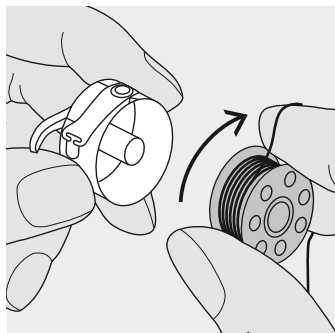
メモ：

下糸を持ち上げる必要なく、最適な下糸の長さで縫い始められます



「安全にご使用頂くために」の項をご参照下さい。

ボビンをセットする

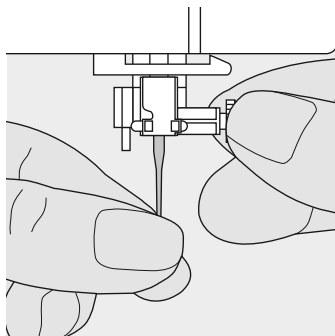


糸の巻き方向が時計回りになるように、注意してボビンを入れます。

糸を時計と反対方向に引きながら切り溝の中に入れ、

糸がバネの下を通過、だ円形の窓から出てくるように通します。糸の端を引っ張ると、ボビンが時計回りに回ることを確かめて下さい。

針の交換



針を取り外す

- ・ 針を上げ、
- ・ 電源をオフしてから、
- ・ 押えを外します。
- ・ 指先でネジを緩め、
- ・ 針を下に引いて外します。

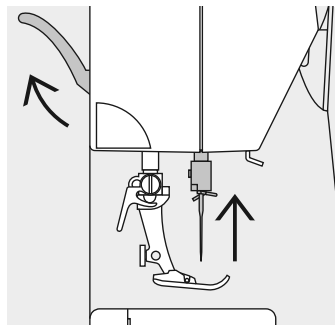
針を取り付ける

- ・ 針の平らな側を後ろに持ち、
- ・ 取り付け穴にいっぱい差込んで、
- ・ 指先でネジをしっかりとめます。

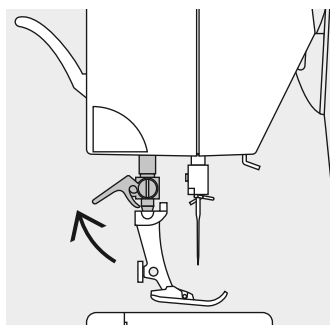


「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

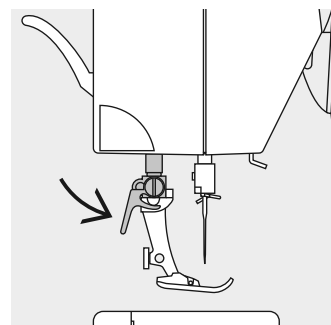
押え金を交換する



- ・ 針と押え金を上げます。
- ・ 電源をオフにします。



- ・ 押え止めレバーを押し上げ、
- ・ 押え金を取り外します。



押え金を取り付ける

- ・ 押え金をいっぱいまで差し込み、
- ・ 押え止めレバーを下げます。

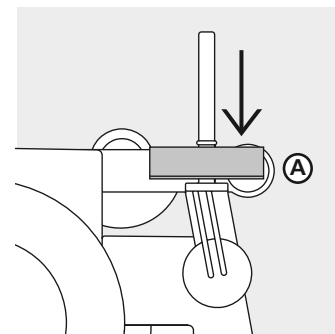
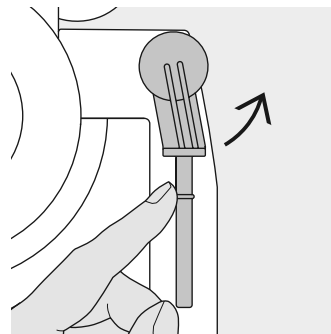


「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

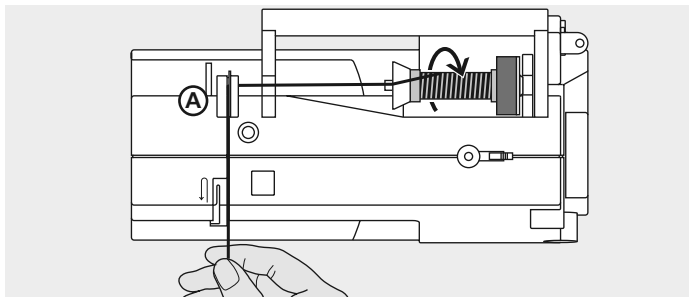
垂直系立て棒を使う

折りたたみ式糸立て棒

- ・ ミシンの後ろ側右手についています。
- ・ 2本以上の糸を使ってソーイングするときに使います。
- ・ くるりと後ろへ回転させてカチッと止まるまで起こします。
- ・ 大きな糸こまを使うときは糸こまクッション A を右図のようにセットします。



上糸をかける



糸こまのセット方法

- 針を上上げて、押えも上げます。
- 電源をオフ《O》にします。
- パッド付糸こま土台を図のように取付けます。
- 糸こまが手前にまわるようにセットします。
- 糸こまの直径に合った糸こま押えで平らな面を糸こま側にして隙間のないように糸こまを固定します。
- 図中 A の糸案内に糸を通します。
- 次に、上糸テンションの糸道に通します。

下へ

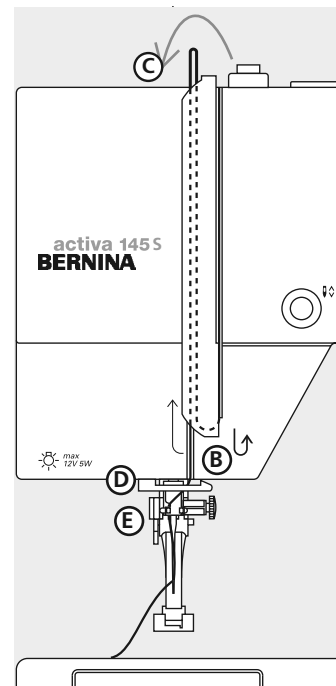
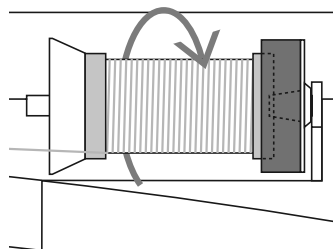
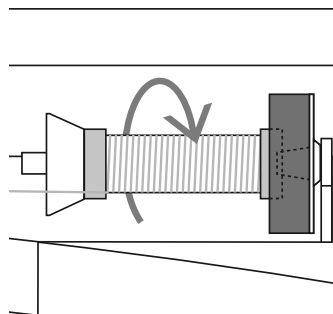
- 天秤カバーの右側に沿ってBへ、

上へ

- 天秤カバーの左側に沿ってCまで通し、

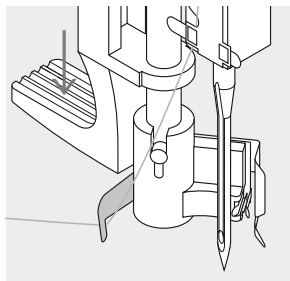
下へ

- 最後にD、Eそれぞれの糸掛けに通します



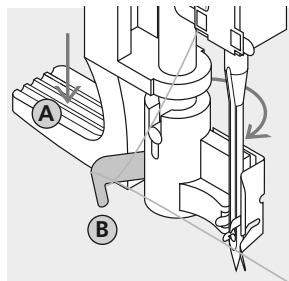
「安全にご使用頂くために」のページ
をご参照下さい

上糸系通し



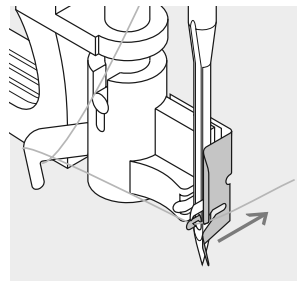
糸をフックに掛ける

- ・押え金を下げ、
- ・上糸をBのフックに軽くひっかけ、



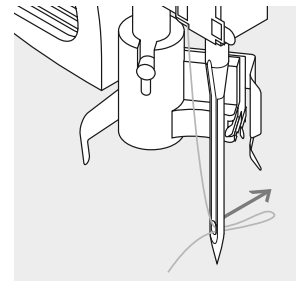
糸通し機のレバーを下げる

- ・Aのレバーを押し下げ、同時に糸が、Bのフックを回って針の右に来るようにする。



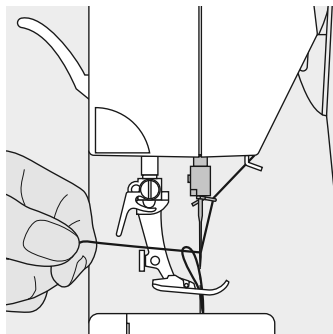
糸を針の前へ

- ・糸を正面からガイドの溝に沿って、フックにひっかかるまで押し込みます。



レバーを開放する

- ・Aのレバーと糸を離せば完了です。
- ・輪になっている糸を後ろへ引くと糸が針穴に通ります。

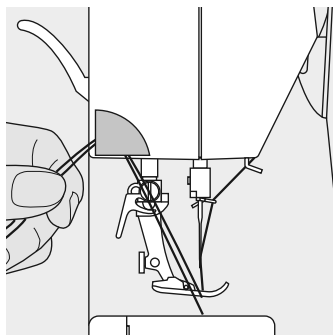


- ・ 上糸を左手で持ったままで、
- ・ 一針だけ、縫います。
- ・ 上糸を引くと、下糸が上がってきます。
- ・ 両方の糸を押え金の溝を通して、横に引き出し、
- ・ 糸切りで切ります。

メモ

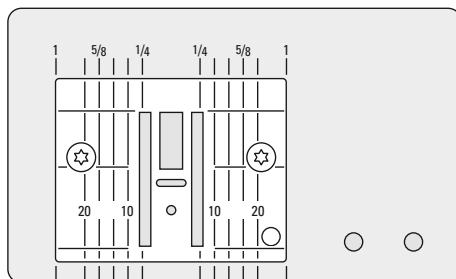
- ・ 通常、下糸切りを使って切った場合は、ほとんどのソーイングで下糸を引き上げる必要はありませんが、
- ・ 特殊な縫い方においては、下糸を必ず引き上げて縫います

糸を切る



- ・ 上糸と下糸両方を、前から後ろの方向へ引き、糸切りにかけます。
- ・ そのままで縫い始めると、糸は自動的にはずれます。

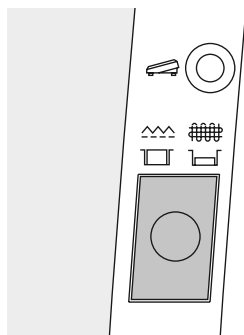
針板



針板のガイドライン

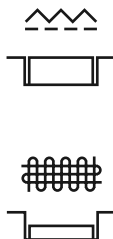
- ・ 針板の表面にはミリ（mm）とインチの両方で布ガイド用の線が刻印されています。
- ・ ミリ表示のマーキングが手前半分に、
- ・ インチ表示がうしろ半分にあります。
- ・ 各数字は針位置がセンターにある場合の針からの距離です。
- ・ ガイド線は左右対称に刻印されています。
- ・ 正確な布送りに大変便利です。
- ・ 水平に刻印されたラインは布地を置く位置の目安として便利です。

送り歯



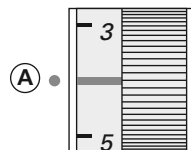
操作ボタンははずみ車の手前下にあります

- ・ ボタンが上がっている状態では送り歯は上にあり、普通縫い用の設定となっています。



- ・ ボタンを押し込むと、送り歯が下がり、つくろい縫いや刺繍等、フリーハンド縫いの設定となります。

上糸テンションの調節



基本縫い

- ・図のAの示す赤いマークにセットしておけば、上糸の調節は必要ありません。
- ・特殊な縫い方の場合、布の種類によって、テンションを調節します。

糸調子はスイス製メトラーポリエステル100番2本廻りを使って、工場でベストの状態にセットされて出荷されています。

特殊な糸を使用する場合には、上糸テンションの調節が必要です。また、糸に合った針を選ぶことも大切です。

上糸テンションを弱くするには：

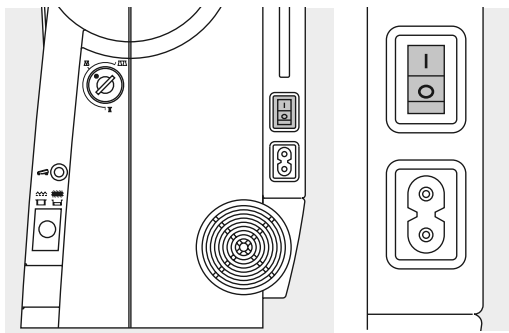
- ・ダイヤルを3～1にセットします。

上糸テンションを強くするには：

- ・5～10にセットします。

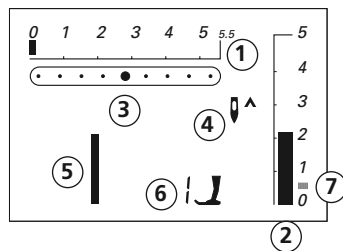
例

糸の種類	テンション	針
メタリック糸	約3	130N 90/14 番 メタリック針 80/12 番
ナイロン透明糸	2～4	80/12 番



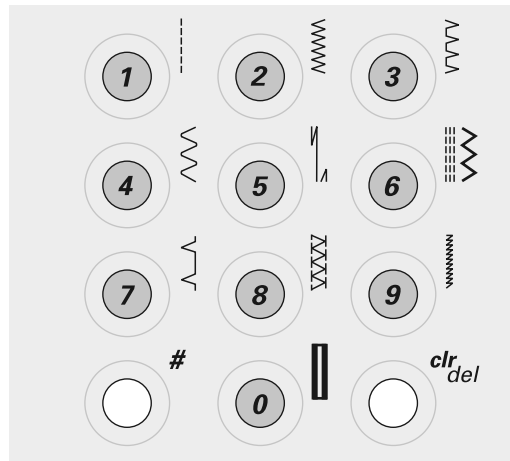
電源スイッチをオン“1”にセットします。

- ・ ミシンは、縫える状態になります。



液晶画面をみる

1. 振り巾の標準セットが点滅しています。
2. 送り長さの標準セットが点滅しています。
3. 針基線の表示（9ポジションあります）
4. 針停止位置表示 通常は上で停止します。
5. 模様縫いの番号（右図では1番を表示）
6. 標準の押え金の番号（右図では1番を表示）
（特殊な縫い方で使う押え金の番号は表示されません）
7. サテンステッチ:縫い目
が小さく綺麗に詰ま
ったジグザグステッチのこと



模様を選んでみる

- ・ 模様番号 1-10

1 から 10 の番号ボタンを押します。標準の送り長さ、振り幅、針基線が液晶画面に表示されます。
10 番のボタンホールステッチはゼロのボタンを押します。

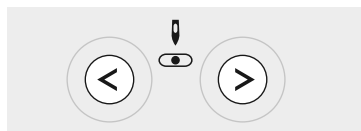
- ・ 11-30 番 (135 S 型)、又は 11-50 番 (145 S 型) の模様を選ぶには、まず # ボタンを押してそのあと番号ボタンを押します。

*30 ページのステッチ模様もご参照下さい。



振り巾を変えてみる：ボタンを押すたびに、又は押し続けると振り巾が変わります。

- ・ 左ボタン： 振り巾を小さくします。
- ・ 右ボタン： 振り巾を大きくします。
- ・ 標準の振り幅が点滅で表示されています。



針基線を変えてみる

- ・ 左ボタン： 針基線が左側に移動します。
- ・ 右ボタン： 針基線が右側に移動します。



送り長さを変えてみる：ボタンを押すたびに、又は押し続けると送り長さが変わります。

- ・ 左ボタン： 送りの長さを短くします。
- ・ 右ボタン： 送りの長さを長くします。
- ・ 標準の送り長さが点滅で表示されています。

各種の機能を使ってみる

機能ボタンを押すと、液晶画面にその機能マークが表示され機能がスタートします。

機能マークを画面から消すと、機能は解除されます。

1/2 スピード機能を使う



針元返し縫いボタンを使う

ボタンを押している間ミシンは後進縫いします。
(最大3ミリ)

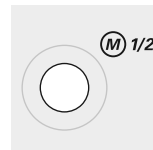
- ・ ボタンホールやつくろい縫いのプログラムに使用します。
- ・ 5 番のステッチで縫い終りを指定します。
- ・ ソーイング中に留め縫い機能として使います。
手動での止め縫いにも使用します。

連続返し縫い機能を使う

- ・ ボタンを続けて 2 回すばやく押します。
- ・ 連続して後進します。
- ・ 連続返し縫いを止めるには 2 回続けてすばやく押します。

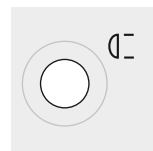
針上下停止機能を使う

- ・ ボタンを押すと画面上で針の絵の右側の矢印の向きが変わります。
- ・ 上向き矢印：針は常に一番上で止まります。
- ・ 下向き矢印：針は常に一番下で止まります。



1/2 スピード機能を使う

- ・ ボタンを押すと画面上に 1/2 と表示されます。
- ・ ソーイングスピードが 1/2 に制御されます。
- ・ もう一度押すと解除されます。



一模様縫い機能を使う

- ・ ボタンを押します。
- ・ 画面にシンボルが表示されます。
- ・ 一つの模様や、模様や文字の組み合わせを完成させて自動で縫い終わります。
- ・ もう一度押すと解除されます



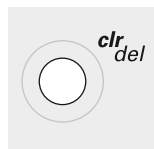
模様反転機能を使う

- ・ ボタンを押します。
- ・ 画面にシンボルが表示されます。
- ・ 選んだ模様を反転して縫います。
- ・ もう一度押すと解除されます。



ボタンを使う

- ・ 番号が 10 番以上のステッチを選ぶときに使います。
- ・ 例) 15 番のステッチは #、1、5 の順で押します。
- ・ 22 ページの模様選択ボタンもご参照下さい。

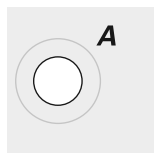


クリア/削除 (clr/del) ボタンを使う

- ・ステッチを標準設定に戻します。
- ・使っている機能を解除します。

例外：

- ・針上下停止機能
- ・1/2 スピード
- ・ボタンホールを標準設定に戻すにはこのボタンを2回押します。

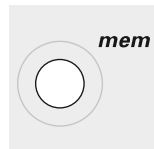


文字・数字ボタンを使う

- ・中央のボタンを押して、三種類の書体を選択できます。
- ・右ボタンを押すと「A B C...」の昇順に表示します。
- ・左ボタンを押すと「C B A...」の降順に表示します。

文字・数字・記号の例

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ_-. ' ! ? % () [] 0 1 2 3 4 5
6 7 8 9 0



メモリー機能を使う

- ・(mem) ボタンを押してメモリーを開きます。
(最高 30 文字又は模様)
- ・右矢印> ボタンで選んだ文字や模様を記憶させます。また記憶した内容を右スクロールします。
- ・左矢印ボタン<は記憶させた内容を左スクロールします。

ステッチメモリーを使う

- ・全てのステッチにメモリー機能が備えられています。
- ・ステッチの送り、振り幅、針基線を変えても、ミシンがオンの状態の間、メモリーが変更した内容を記憶しています。

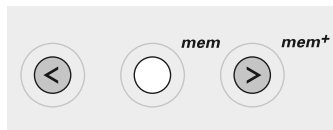
標準のセッティングに戻す、

- ・クリヤーボタン clr/del を押します。すべてのステッチのメモリーが解除されます。
- ・又は、個別にステッチを標準にセットし直します。
- ・電源を切ると、これらの変更した内容は失われます。

メモリーを使ってみる

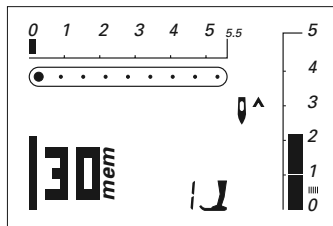
30種類まで飾り模様や、実用縫い模様、文字、数字など全てのステッチの組合せをメモリーに保存でき、恒久的に記憶させることができます。メモリーに保存された内容は、取り消しの操作をするまで保存され、電源を

切っても消えませんが、送り長さ、幅、針基線は、記憶する前に変更しておきます。個々の模様や文字、数字は、取り消したり、書き換えたりすることができます。



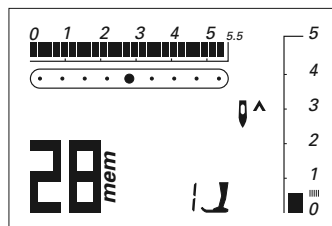
メモリー操作ボタンを使う

- ・左の<ボタンでメモリーの内容を後ろ向きにスクロールして表示します。
- ・中央のメモリーボタン（mem）を押してメモリーを開いたり閉じたりします。
- ・右の記憶ボタン（mem+）又は>ボタンでメモリーへの入力と、メモリーの内容を昇順にスクロールして表示します。



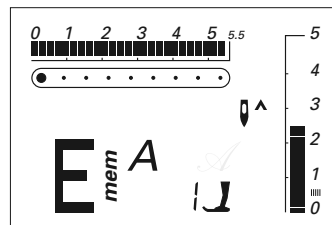
メモリーを開く

- ・メモリーボタン（mem）を押します。
- ・もしメモリーが空ならば 30 という数字とmemの文字が画面に表示されます。
- ・可能な数字を示しています。



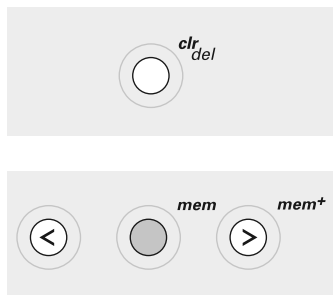
例）メモリーに記憶された模様は番号で表示される

- ・左の図では 28 番の模様が記憶されています。
- ・模様をメモリーに記憶させる方法は次ページをご参照下さい。



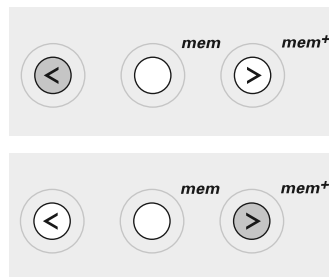
例）文字は文字のままで表示されます

- ・左の図では文字Eが記憶されています。
- ・模様をメモリーに記憶させる方法は27ページをご参照下さい。



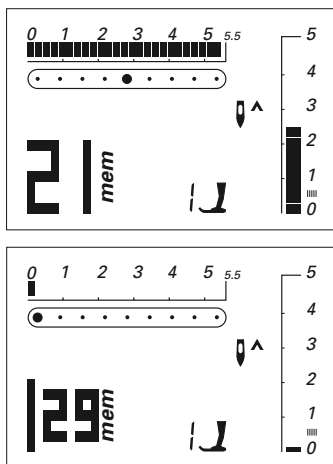
メモリーの内容を全て消去する

- ・クリヤーボタン (clr/del) を押したままで、
- ・メモリーボタン (mem) を押します。
- ・全て消えました。
- ・もう一度メモリーボタン (mem) を押すとメモリーが閉じられます。



実用縫い又は飾り縫いをメモリーに記憶する

- ・メモリーを開く (25ページ参照)
- ・模様 22 番を選びます。
- ・模様番号の 21 が画面に表示されます。
- ・記憶ボタン (mem+) を押して模様 21 番を記憶させます。
- ・画面にはさらに入力可能な 29 の数が表示されます。
- ・カーソルと数字は点滅表示されています。
- ・次の模様を選択します。
- ・記憶ボタン (mem+) を押して入力します。
- ・同じようにして次々と模様を記憶させます。



メモリーを降順で表示する

- ・左の<ボタンを押します。
- ・記憶されたメモリー内容が降順に表示 (スクロール) されます。

メモリーを昇順で表示する

- ・右の>ボタンを押すと、メモリー内容が昇順に表示 (スクロール) されます。

メモリーの内容を縫ってみる

- ・フットコントローラーを踏むと、メモリーの中身を縫い始めます。
- ・一模様機能をオンにしておくとメモリーの中身を1回縫って自動的に止まります。

注意：次の特殊なステッチはメモリーに記憶できません。

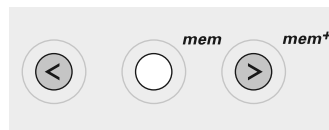
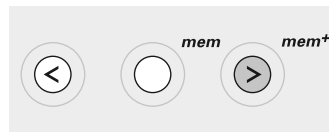
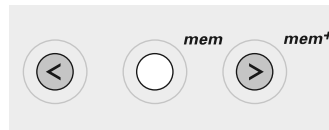
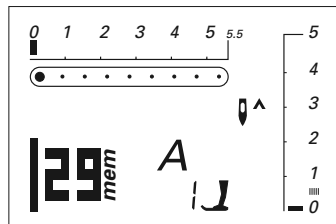
- No. 5 自動留め縫い
- No. 10-12 ボタンホールステッチ
- No. 13 ボタンホールステッチ
- No. 14 つくろい縫い
- No. 15 しつけ縫い

文字または数字を入力してみる (145S型のみ)

メモリーを開く

- ・メモリーボタン(mem)を押します。
- ・縦棒のカーソルと入力可能な数字が画面左下に表示されます。
- ・文字書体選択ボタンを押します。
- ・右ボタン>又は左ボタン<を押して文字を昇順、又は降順に順次表示します。
- ・文字または数字を選びます。
- ・記憶ボタン(mem+)を押して記憶します。
- ・画面にはさらに入力可能な数字が表示されます。
- ・次の文字または数字を選びます。
- ・記憶ボタン(mem+)を押します。
- ・順次入力してゆきます。
- ・スペースは《__》を選んで入力します。

注意：メモリーを使って縫う時、送りや振り幅を変えると、記憶した全ての模様や文字を変更します。
文字や数字の一つを変更したいときは、記憶するときに、個々に変更して記憶しなければなりません



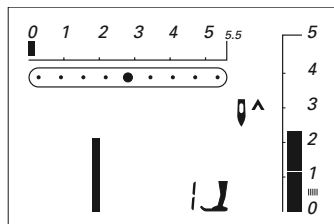
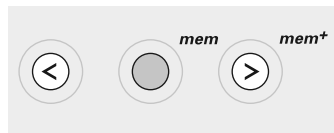
メモリーの内容を変更する

模様や文字/数字を上書きする

- ・右ボタン>又は左ボタン<を押して、訂正したい文字又は模様を画面に表示します。
- ・新しい模様、文字または数字を選びます。
- ・必要な送り、振り幅、針基線を変えます。
- ・記憶ボタン(mem+)を押して、上書きします。

模様や文字/数字を削除する

- ・削除したい文字又は模様を画面に表示します。
- ・クリアーボタン(clr/del)を押すと削除します。



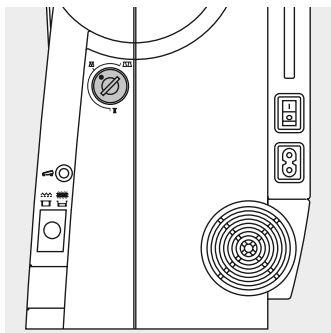
メモリーを閉じる

- ・メモリーボタン（mem）を押します。
- ・入力した内容は保存され、メモリーを閉じます。
- ・memの文字が画面から消えます。

ミシンの電源を切った後にも、保存したデータは消えずに残り、次回メモリーボタン（mem）を押すと呼び出すことができます。

メモリーボタン（mem）を押してメモリーを閉じないでミシンの電源を切った場合は、メモリーの内容は失われます。

バランス



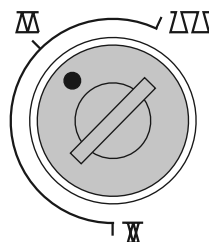
ミシンは工場から出荷される前にスイス製 100 番/2 本廻りのメトロシールポリエステル糸を使ってテストされ、完全に調整されています。

模様ステッチは、布や糸のタイプ、また安定紙や芯地の組み合わせにより、針目がつまり過ぎたり、粗過ぎたりして、時には模様が乱れることがあります。

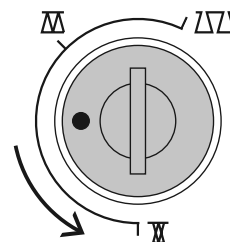
用途：

例えばジャージ地でのネットステッチ、飾り縫い、文字やボタンホールなどの実用縫いに使います。

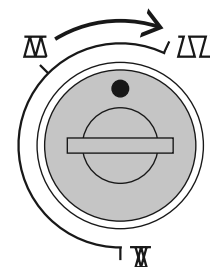
バランス機能を使うと生地やソーイング条件にあったソーイングが可能になります。



通常の位置



より密な送りの位置
(送り長さは短くなります)



より粗めの位置
(送り長さは大きくなります)



ご注意

バランスを調整したあとは、必ずつまみを標準の位置に戻して下さい

各種のステッチ

実用および飾り縫い

1. 直線縫い
2. ジグザグ
3. バリオーバーロック
4. ランニングステッチ
5. 自動留め縫い
6. トリプル
(直線・ジグザグ) ステッチ
7. まつり縫い
8. ダブルオーバーロック
9. スーパーストレッチ
10. 標準ボタンホール
11. 鳩目ボタンホール
12. 直線ボタンホール (玉縁用)
13. ボタンソーイング
14. 自動つくろい縫い
15. しつけ縫い
16. 三点ジグザグ
17. ユニバーサルステッチ
18. ギャザーステッチ
19. ネットステッチ

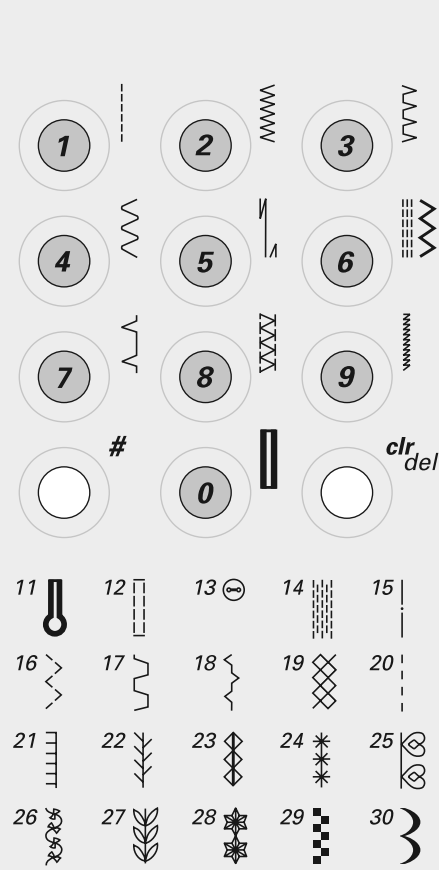
1 3 5 S 型

- 20-22 キルティングステッチ
23-30 飾り模様

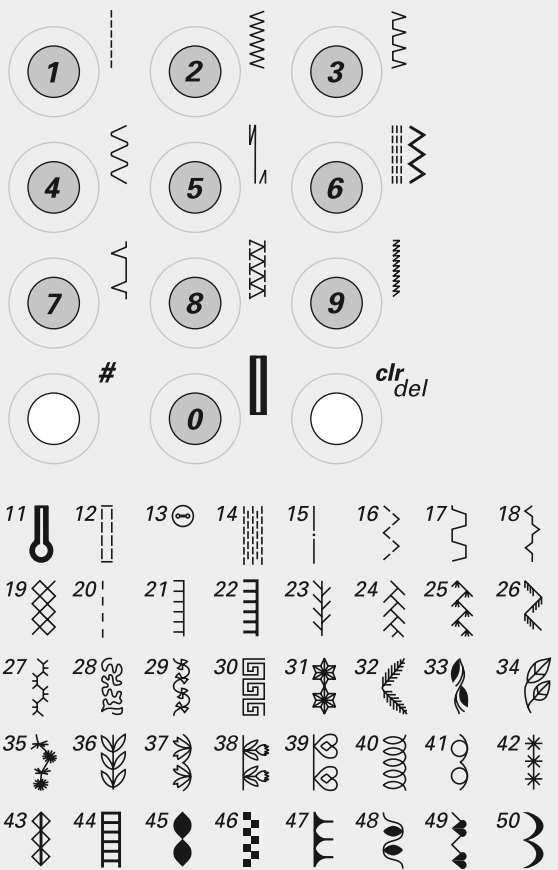
1 4 5 S 型

- 20-28 キルティングステッチ
29-50 飾り模様

activa 135 S

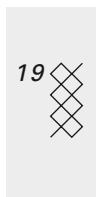


activa 145 S



ステッチを選ぶ

1	2	3	1 直線縫い	伸縮性のない生地。あらゆる直線縫い
			2 ジグザグ	あらゆる生地。薄地でのジグザグ縫いや、ゴムひもやレースの縫い付けなど
			3 バリオーバーロック	主に薄地のジャージ等、伸縮地の縁かがりやオーバーロック縫い
4	5	6	4 ランニングステッチ	あらゆる生地。つくろい縫い、パッチの縫い付けや補強縫いなど
			5 自動止め縫い付直線縫い	あらゆる生地。直線縫いの始めと終わりを自動的に止め縫いする
			6 トリプル(直線・ジグザグ)ステッチ	厚くて丈夫な生地。補強縫いに
7	8	9	7 まつり縫い	あらゆる生地。くけ縫いやソフトなジャージ、薄地のシェルタック、飾り縫いなど
			8 ダブルオーバーロック	あらゆるニット地。縫うと同時に縁の始末ができる
			9 スーパーストレッチ	スーパーストレッチ生地の縫い合わせに



14 自動縫い縫い

薄手から中厚手の生地。自動的にかがり縫いをする。

19 ネットステッチ

ほとんどのインターロック伸縮地、滑らかな生地に、飾り模様に、ヘム縫いに

20 手縫い風キルティングステッチ

上糸にナイロンモノフィラメント糸、下糸にステッチ糸を使って手縫い風のキルティングステッチ。上糸テンションを6-9にセットします。



10 標準ボタンホール

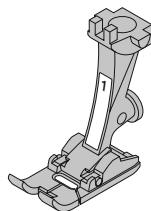
薄手から中厚手の生地。ブラウス、シャツ、ズボン、寝具等に

11 はと目ボタンホール

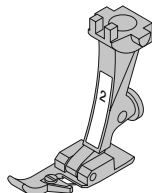
厚地、非伸縮地、ジャケット、コート、レジャーウェアに

12 直線ボタンホール

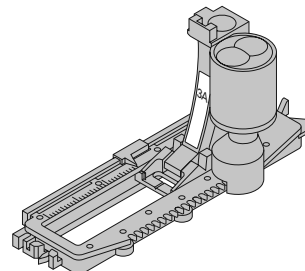
玉ぶちボタンホール（自動の#3 A押え使用）、玉ぶちポケット（押え#3使用）に



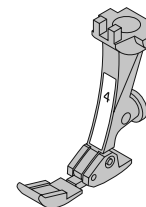
No. 1 標準押え
実用縫いおよび飾り縫い用



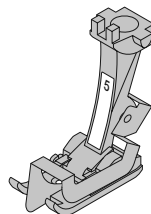
No. 2 オーバーロック押え
オーバーロック縫いに



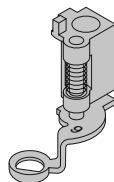
No. 3A ボタンホール押え
自動ボタンホール、自動繕い縫いに



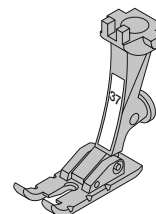
No. 4 ファスナー押え
ファスナー付けやパイピング用



No. 5 まつり縫い押え
まつり縫いや縁縫い用



No. 9 繕い縫い（ダーニング）押え
フリーハンドキルティングや、フリー刺しゅう、繕い縫いに



No. 37 パッチワーク押え（6mm 縫い代）
6 ミリ又は3 ミリの縫い代のパッチワークに（135 S 型ではオプション）

自動留め縫い



ステッチ： 自動留め縫い付直線縫い No. 5
針： 生地に合わせて選びます（57 ページ参照）
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： ソーイングポジション
押え： 標準押え 1 番

留め縫い

- ・ あらゆる生地に適用できます
- ・ 縫い目の始まりと終わりを返し縫いをして止めます
- ・ ずれずに前に縫った上を重ね縫いします

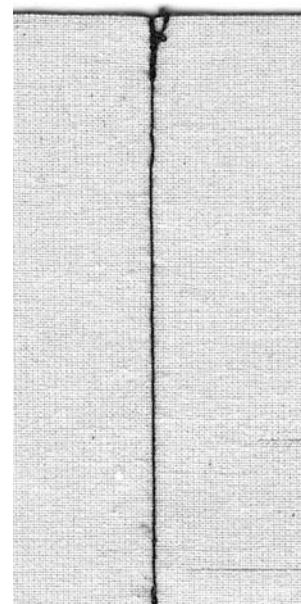
縫い始めます

- ・ ミシンが自動的に縫い始めを留め縫いします。（5 針前進、5 針後進）
- ・ その後、前進で直線縫いをします。

縫い終わり



- ・ 針元返し縫いボタンを押す。
- ・ ミシンが自動的に止め縫いをします。（押した位置から 5 針後進、5 針前進）
- ・ 留め縫いが終了すると、ミシンは自動的に停止します



しつけ縫い

- ステッチ： しつけ縫い No. 15
針： 生地に合わせて選びます（57 ページ参照）
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： ダーニングポジション
押え： ダーニング押え 9番

しつけ縫い

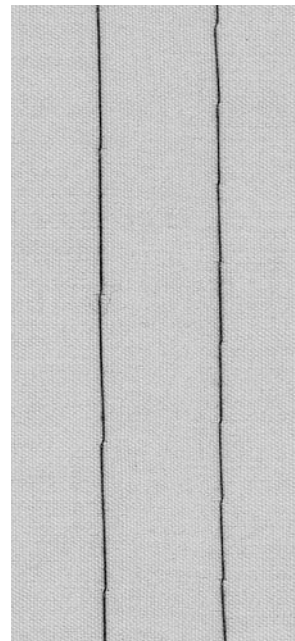
- ・長いステッチで縫います
- ・しつけ縫い、ふちかがり、キルティングなどに
- ・簡単に取り除けます

準備

- ・生地がずれないようにしつけ縫いの方向にそってまち針を打ちます

しつけ縫いをする

- ・送り歯を下げます
- ・生地を押え金の下に置いて、まず一針縫います。縫い始めは上糸と下糸を左手で持って後ろへ引くようにします
- ・適当な長さの縫い目になるまで生地を後ろへ引きます
- ・又一針縫って生地を後方へ引きます。繰り返して縫ってゆきます



ヒント 留め縫い

- ・縫い始めと縫い終りに2—3針同じ場所を縫って留め縫いします。

しつけ糸

- ・簡単に取り除けるように細いしつけ用の糸を使いましょう

まつり縫い



- ステッチ： まつり縫い No. 7
 針： 生地に合わせて選びます（57 ページ参照）
 糸： コットンまたはポリエステル糸
 送り歯： ソーイングポジション
 押え： まつり縫い押え 5番

まつり縫い

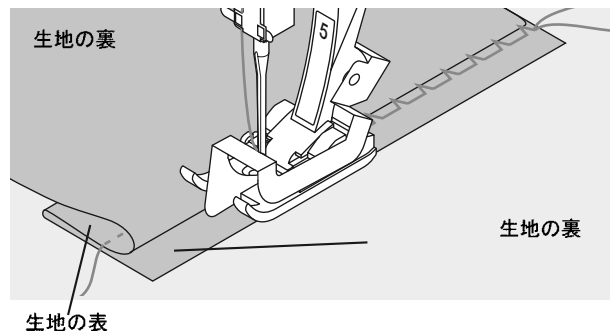
- ・ 中厚手の木綿、ウールおよび混紡に目立たない縁縫いをするのに最適です。

準備

- ・ 布端を切り揃え、
- ・ 手縫い同様にあらかじめ縁かがりをします。
- ・ その後、図のように押え金の下に生地を置きます。

縫い方

- ・ 手縫いの場合同様、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意します。
- ・ 生地に合わせて振り巾を調整します。
- ・ 10cm ほど縫ったら、生地の裏表をチェックして、必要であれば再度振り巾を調整します。



ヒント：

縫い目を均一に、また巾を揃えるには：
 折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります。

繕い縫い



- ステッチ： 自動繕い縫い No. 14
 針： 生地に合わせて選びます (57 ページ参照)
 糸： つくろい縫い用糸
 送り歯： ソーイングポジション
 押え： 標準押え 1 番、または
 自動ボタンホール押え # 3 A

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと繕います。

標準押え 1 番で縫ってみる

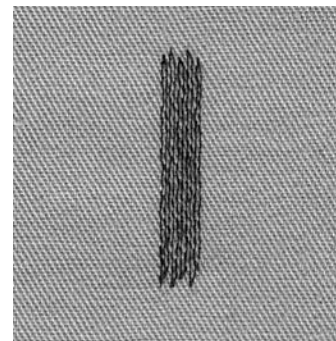
- ・ 針を左上の縫い始めに刺します。
- ・ 最初の列を適当な長さで縫います。
- ・ 針元返し縫いボタンを押すと、長さが記憶されます。
- ・ 続けて縫います。ミシンは自動的に止まります。

大きな部分を繕いたい

- ・ 順番に繕う場所を押えの下に移動して全体をカバーします
- ・ 記憶した長さを取り消すには、クリアーボタン (clr/del) を押します

自動ボタンホール押え # 3 A を使って縫う

- ・ 最大 30 ミリまで縫えます
- ・ 標準押え 1 番のときと同じように縫います



ヒント

繕い縫いを補強する

- ・ 薄手の生地または芯地で裏打ちして補強します

準備

- ・ 伸縮地は、刺繍枠 (別売りオプション) を使うと生地にしわがよりません。

送りバランス微調整

かがり縫い部分の後と手前が均等に揃わないときは、送りバランス微調整つまみで調節して下さい

ファスナー付け

ステッチ： 直線縫い No.1
 針： 生地に合わせて選びます（57 ページ参照）
 糸： コットンまたはポリエステル糸
 送り歯： ソーイングポジション
 押え： ファスナー押え 4 番
 針基線： 左端／右端

準備

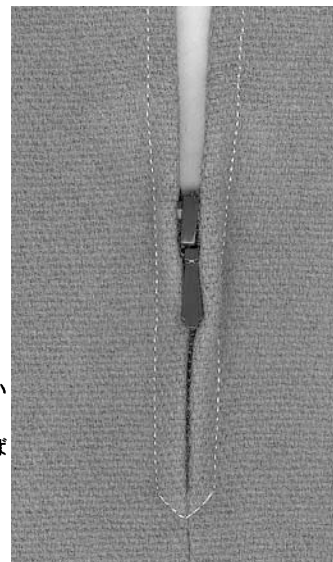
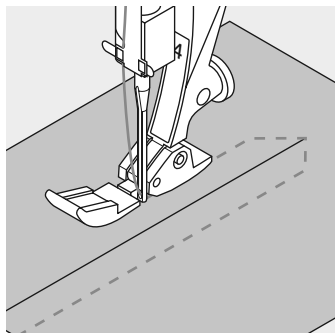
- ・ ファスナーをしつけ縫いします
- ・ 布端が、ファスナーの中心上で合うように、しつけをかけておきます。

縫い方

- ・ ファスナーの両側を下から上に向かって縫います。
- ・ ファスナーの右側を縫う場合は左基線で、左側を縫う場合は右基線で縫います。
- ・ 押えの端がファスナーの歯に沿って動き、また針はファスナーのすぐそばに落ちるように縫います。

コンシールファスナー押え

- ・ オプションでベルニナ製品取扱店にてお買い求め下さい。



ヒント

ファスナーのむしまわり

- ・ 押えに引っかからないように、ファスナーを閉じて、むしから 5cm くらいまで縫います
- ・ 針は下位置に残したまま押えを上げ、ファスナーを開き、再度押えをおろして縫い続けて下さい。

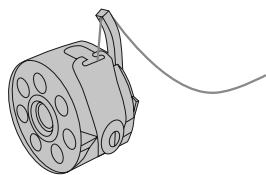
縫い始め

- ・ 糸を手できつめに引くか、または数針分のみ、生地をわずかに後ろに引き加減にします。

ファスナー生地は厚くまた堅い

- ・ ステッチを均一にするために、90/14-100/16 番の針をお勧めします。

ボタンホール縫いで大切なこと

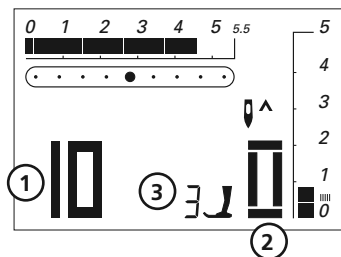


糸調子

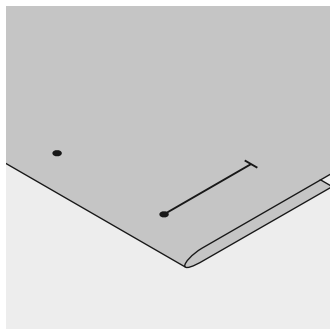
- ・ 下糸をボビンケースの下の部分の穴に通して、下糸のテンションを少し強くします。
- ・ 上糸が下側に引かれて、布表側で丸くきれいに仕上がります。
- ・ 芯糸を入れると、補強でき、また見栄えも良くなります。(47, 48 ページ参照)

ボタンホールは生地を閉じる目的のものではなく、飾り縫いとして使っても大変きれいなステッチです。

ボタンホールステッチを選ぶと下図のような画面が表示されます。

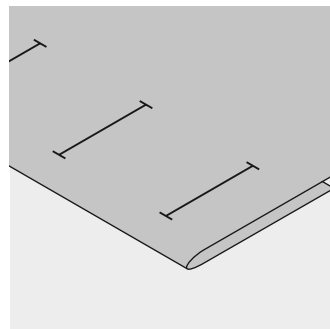


- ① ボタンホールステッチ番号
② ボタンホールのシンボルマーク
③ 押え金番号表示



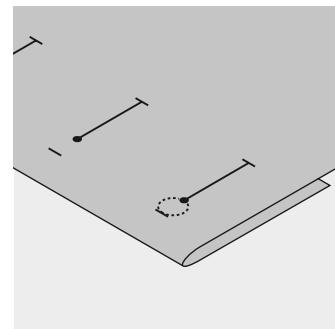
自動ボタンホールの印のつけ方

- ・ 最初に縫う場所に適当な長さの印をつけます。
- ・ 二つ目からは始点の位置にのみ印をつけます。
- ・ 最初のボタンホール縫いで長さが記憶され、二つ目からは自動で縫います。



マニュアル式ボタンホールの印のつけ方

- ・ 縫う全ての場所に適当な長さの印をつけます。
- ・ ボタンホール押え3番(別売りオプション)を使って縫います。
- ・ サイズが無制限に縫えます



はと目ボタンホールの印のつけ方

- ・ 最初に縫う場所に穴かがりの長さの印をつけます。
- ・ はと目は自動で追加されます。

試し縫い

- ・必ず実際に使用する生地と接着芯、又は安定紙を使って試し縫いします。
- ・縫いたいボタンホールを選択します。
- ・実際に縫うときと同じ生地の目の方向に縫います。
- ・ボタンホールを切り開きます。
- ・ボタンを通してみて、必要ならばもう一度試し縫いしてサイズを調整します。

ボタンホールの調整方法

穴かがりの巾を変えるには、

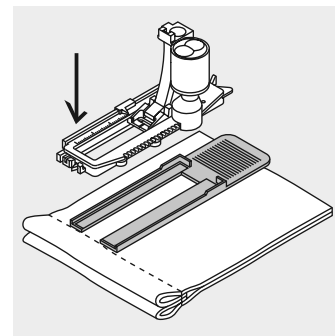
- ・振り巾を調節して下さい。

縫い目の送り長さを変える

- ・送りの長さの変更は常に左右の穴かがりの縫い目の長さに影響します。
(密、粗、いずれの場合でも)
- ・送り長さを調節した後、再度試し縫いしてボタンホールを記憶させて下さい。

送りバランスの微調整。

ボタンホールでは両側を同一方向に縫いますので、バランスを調整すると、両側の穴かがりがりを均等に変更します。

ヒント**ボタンホール高さ調節板**

(別売りオプション)

- ・布ガイド付ボタンホール押えを使うときに、押えの先端が縫い代に乗り上げてうまく布送りしない時には、この調節板のご使用をお勧めします。

ご注意：

ボタンホール縫いが終わったら、バランス調節つまみを必ず標準の位置に戻して下さい。

自動で縫う標準ボタンホール

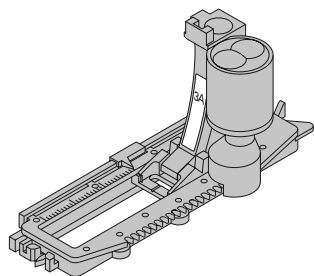
左右両方の穴かがりを同じ方向に、同じ距離を正確に縫いますので、左右の穴かがりがきれいに揃います。

メモ：

自動ボタンホール押え 3 Aは布地に完全に平らに置いてください。もし押えの一部が布から浮き上がっていたりするとコンピューターが長さを正確に計れません。



- ステッチ： 自動ボタンホール No. 10
針： 生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： ソーイングポジション
押え： 自動ボタンホール押え No. 3A

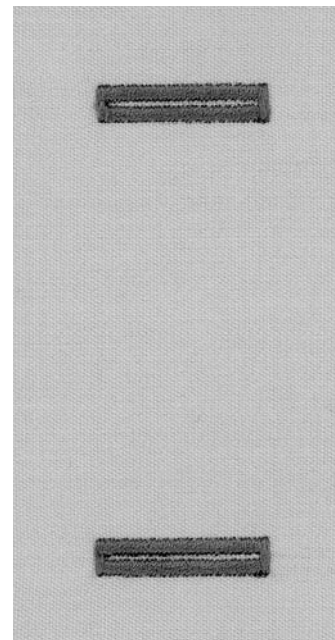


自動標準ボタンホール

- ・ まず、下糸をボビンケースのつのに通して下さい。（39ページ参照）
- ・ ボタンホール押え 3 A についてのセンサーでボタンホールの長さを自動的に読み取ります。
- ・ ボタンホールの各ステップが液晶画面に表示されます。

ご注意

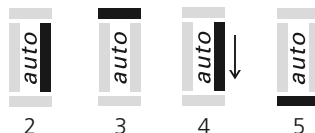
自動ボタンホールプログラムが選ばれると、画面には押え金番号 3 が表示されます。



自動で縫う標準ボタンホール



1



2

3

4

5

ボタンホールをプログラムする

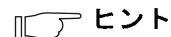
- ・最初の穴かがりを前進で縫い、適当なサイズでミシンを止めます。
- ・手元返し縫いボタンを一回押します。
- ・《auto》の文字が画面に表示され、ボタンホールの長さがプログラムされました。
- ・反対側を直線で縫い、環止めを縫い、
- ・残りの穴かがりを続けて縫います
- ・ミシンが自動的にボタンホールを縫って止まるまでフットコントローラーを踏み続けてください。

自動ボタンホール

- ・次のボタンホールからは同じ長さで自動的に縫えます。
(返し縫いボタンを押す必要はありません。)
- ・ボタンホールを終えるにはクリアーボタン (clr/del) を押します。
- ・記憶されたボタンホールのサイズは恒久的にメモリーに残ります。(49ページ参照)

ボタンホール高さ調節プレート

- ・服地の端にボタンホールを縫うとき、段差があればきれいなボタンホールが縫えません。40 ページのボタンホール押え用の高さ調節プレートのご使用をお勧めします。



ヒント

正確に同じボタンホールを縫う

- ・自動機能は各ボタンホールを正確に長さも見た目も同じに仕上げます。

印を付ける

- ・ボタンホールの始点にだけ印を付ける一実に簡単！

ソーイングスピード

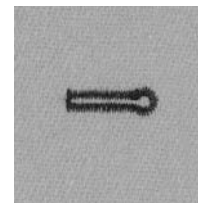
- ・中くらいのスピードで縫いましょう。
- ・同じスピードで縫うのが穴かがりの目の大きさを揃えるコツです。

自動で縫うはと目ボタンホール

左右両方の穴かがりを同じ方向に、同じ距離を正確に縫いますので、左右の穴かがりがきれいに揃います。



- ステッチ： 自動ボタンホール No. 11
針： 生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： ソーイングポジション
押え： 自動ボタンホール押え No. 3A

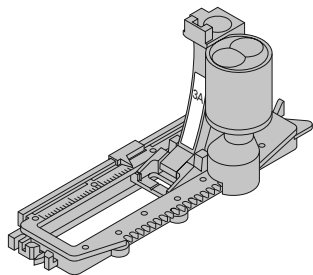


自動はと目ボタンホール

- ・まず、下糸をボビンケースのつのに通して下さい。（39 ページ参照）
- ・ボタンホール押え 3 A についたセンサーでボタンホールの長さを自動的に読み取ります。押えの最後まで縫うと自動的に最大サイズでボタンホールを縫い上げます。

はと目ボタンホールを縫う位置に印をつける

- ・穴かがり部分の長さのみ印をつけます。はと目は自動的に追加されて縫い上げられます。
- ・ボタンホールの各ステップが液晶画面に表示されます。





1



2

3

4

5

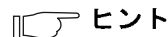
6

最初のボタンホールをプログラムする

1. 最初の穴かがりを前進に必要な長さを縫います。
 - ・ 手元返し縫ボタンを一回押してミシンを止めます。
 - ・ 《auto》の文字と押え金番号3Aが画面に表示され、ボタンホールの長さがプログラムされました。
 - ・ ミシンが自動的にボタンホールを完成し自動的に止まります。
2. 自動ではと目を縫います。
3. 左側の穴かがりを後進ジグザグで縫います。
4. 右側を直線で縫います。
5. 右側の穴かがりを後進ジグザグで縫います。
6. 環止めを縫って留め縫いをします。
 - ・ ミシンは自動的に止まり、次のボタンホールの縫い始めに戻ります。

自動ボタンホール

- ・ 次のボタンホールからは全て同じ長さで自動的に縫います。(手元返し縫ボタンを押す必要はありません)
- ・ ボタンホールを終えるにはクリヤーボタン (clr/del) を押します。
- ・ 記憶されたボタンホールのサイズは恒久的にメモリーに残ります。(49 ページ参照)



ヒント

正確に同じボタンホールを縫う

- ・ 自動機能は各ボタンホールを正確に長さも見た目も同じに仕上げます。

印を付ける

- ・ ボタンホールの始点にだけ印を付ける一実に簡単！

鳩目ボタンホールの二度縫い

- ・ 厚い布地では鳩目ボタンホールを二度縫いするとしっかりした仕上がりになります。
- ・ 最初のボタンホールを縫い終わった後、そのまま押え金も生地も動かさないで下さい。
- ・ フットコントローラーをもう一度踏むだけです。

マニュアル式ボタンホール縫い

マニュアル式ボタンホール縫いは、一つだけ特殊なサイズのボタンホールを縫ったり、既存のボタンホールの補修などに便利です。

不要なステップを飛ばしたり、同じステップを繰り返すことも可能です。

マニュアル式で縫ったボタンホールは記憶させることはできません

- ステッチ： すべてのボタンホールステッチで可能です
針： 生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
糸： コットンまたはポリエステル系
送り歯： ソーイングポジション
押え： 自動ボタンホール押え No. 3（別売りオプション）

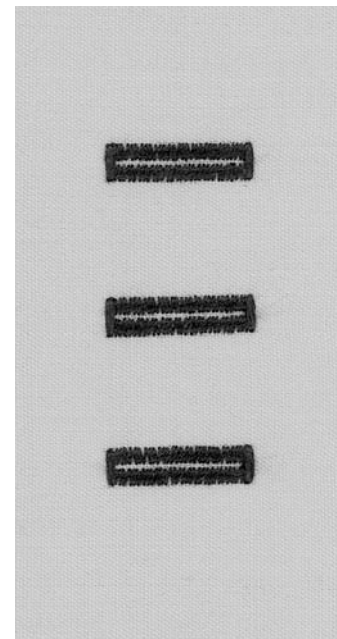
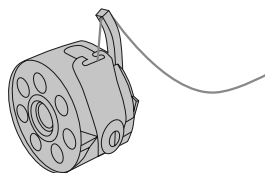
準備

- ・ 下糸をボビンケースのつのに通します。
- ・ 縫いたいボタンホールを選びます

試し縫いします

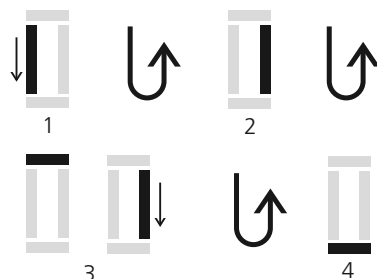
- ・ 実際に使う生地と芯地を使って試し縫いをします。
- ・ 実際と同じ生地の織り目に沿って試し縫いします。

各ステップは、画面に点滅して表示されます。

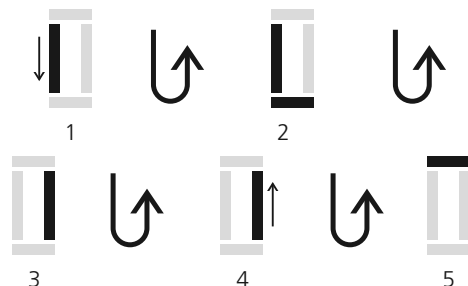


マニュアルで標準ボタンホールを縫う

左右両方の穴かがりを同じ方向に縫います



1. 最初の穴かがりを縫い、適当な長さでミシンを止め、針元リバースボタンを押します。
2. 右側の穴かがりを後進で縫い進みます。最初の位置でミシンを止め、針元返し縫いボタンを押します。
3. 上の環止めを縫い、右側の穴かがりを縫います。ミシンを止めて針元リバースボタンを押します。
4. 自動的に留め縫いをして止まります。



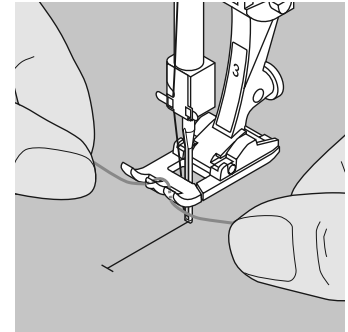
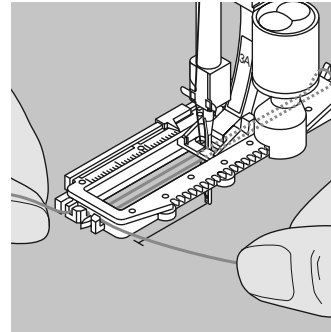
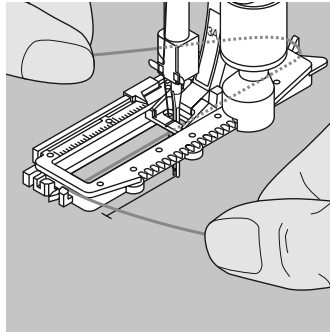
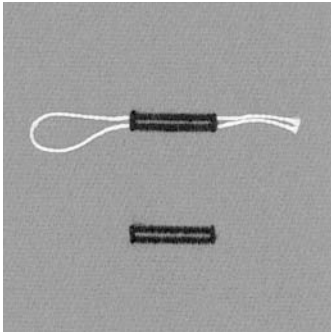
マニュアルではと目ボタンホールを縫う

各ステップが画面に表示されます

左右の穴かがりを同じスピードでゆっくり縫います

1. まず左側の穴かがりを直線で縫い、適当な長さでミシンを止め、針元返し縫いボタンを押します
2. はと目を後進で縫い、左側の穴かがりを縫ってゆきます。ミシンを最初の位置で止め、針元返し縫いボタンを押します。
3. 次に、右側を直線で縫い進みます。鳩目の位置でミシンを止めて、針元返し縫ボタンを押します
4. 右側の穴かがりを後進で縫い始めます。左側の穴かがりの始まりに揃えてミシンを止め、針元返し縫ボタンを押します。
5. 環止めと止め縫いをして自動的に止まります。

芯糸を使った標準ボタンホール



芯糸の効果

- ・ 芯糸はボタンホールを補強し、型くずれを防ぎ、見栄えを良くします。
- ・ 芯糸の輪の部分が、通常もっとも力のかかるボタンホールの端にくるように入れます。ボタンが止まる位置が、芯糸の輪の部分にくるように一致させます。
- ・ 図のように押えの下に布を置きます。
- ・ 標準ボタンホールや伸縮性のある生地に最適です。

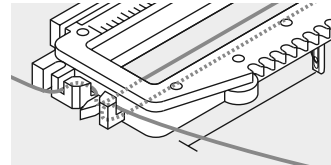
理想的な芯糸のタイプ

- ・ レース糸 8 番
- ・ 強い手縫い用糸
- ・ 細いかぎ針糸

布ガイド付押え # 3 A に芯糸を掛ける：

- ・ ボタンホールの始点に針を刺し、
 - ・ 押えを上げます。
 - ・ 芯糸の輪になった部分を、押えのうしろにある突起に引っかけます。
- 芯糸を押えの前に引き出して、
- ・ 前にある止め具に引っ掛けます。
 - ・ この状態でコードの上を縫います。

- ・ 糸の端を二本揃えて、押えの下の本の溝を通して後方に引きます。
- ・ 押えを下ろします。

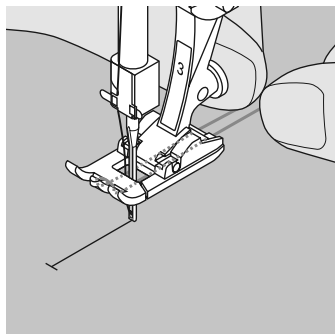


縫い方

- ・ ボタンホールを縫い始めます
- ・ その時芯糸を強く引っ張らないように
- ・ ボタンホールが芯糸の上に縫いつけられ芯糸は完全に隠れてしまいます

ボタンホール押え # 3 (オプション) に芯糸を掛ける：

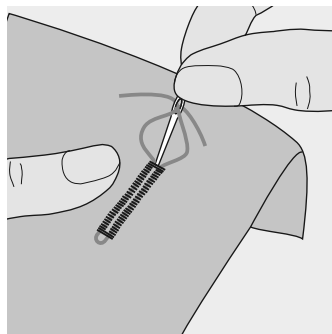
- ・ ボタンホールの始点に針を刺し、
- ・ 押えを上げます。
- ・ 芯糸の輪になった部分を、押えの前方中心にある突起に引っかけます。



- ・ 芯糸を押えの前に引き出して、前にある止め具に引っ掛けます。
- ・ この状態でコードの上を縫います。

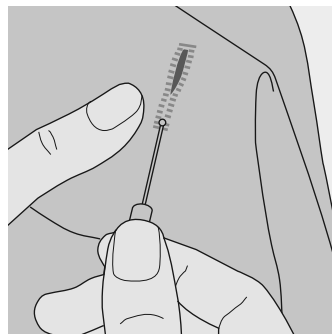
縫い方

- ・ ボタンホールを縫い始めます。
- ・ 縫っている間は芯糸を強く持たないで下さい。
- ・ 芯糸をカバーするようにボタンホールが縫われます。



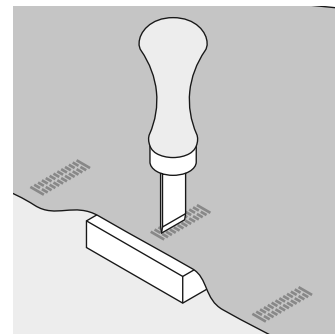
芯糸を止める

- ・ かがり針を使って、糸端を裏側に出します。
- ・ 裏側から糸端を引いて輪を隠します。
- ・ その上で、結び目を作るか、止め縫いをします。



ボタンホールを開ける

- ・ シームリッパーを使って、両端から中心に向かって、糸を切らないよう注意して穴を開けます。



カッターとブロックを使ってボタンホールを開ける

- ・ 布をブロックの上におきます。
- ・ カッターを、ボタンホールの中央に当てます。
- ・ カッターを手で強く押すか、木槌で軽くたたいて開けます。

縫ったボタンホールを保存する

縫ったボタンホールを長期に保存する

- ・記憶ボタン (mem+) を押します。
- ・ボタンホールは長期保存されました。

保存したボタンホールで縫う

保存したボタンホールはミシンの電源を切っても再び呼び出して縫うことができます

- ・ボタンホールを選びます。
- ・《mem》ボタンを押します。
- ・保存されたボタンホールが縫えます。
- ・どのタイプのボタンホールでも保存することができます。
- ・個々のボタンホール縫いに対して一つのサイズのみ保存できます。

- ・自動縫い縫いもボタンホールと同じ方法で、保存したり呼び出したり出来ます。

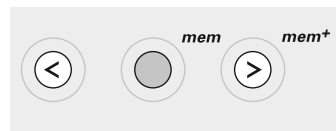
保存したボタンホールを変更する

- ・送り長さの変更は左右の穴かがりを変えます
- ・送り長さを変更したら、ボタンホールを保存し直します
- ・縫い目の長さと幅はクリアーボタン (clr/del) を押して取り消すことができます。

バランス

- ・マニュアル式及び自動式ボタンホールでは左右の穴かがりを同じ方向に縫いますので、バランスを調整したときは、左右の穴かがりに影響します。
- ・はと目ボタンホールのはと目のゆがみは、バランスで修正できます。

穴かがりを利用した調整は、調整した時は保存しているボタンホールをクリアーボタンで削除して再度保存しなおして下さい。



ご注意：

送りバランス微調整を使ってボタンホールを縫った後、送りバランス微調整つまみを標準の位置に戻すのを忘れないように。

ボタンを縫う



ステッチ： ボタンソーイングステッチ No. 13
 振り幅： ボタンの穴の幅により変更する
 針： 生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
 糸： コットンまたはポリエステル糸
 送り歯： ダーニングポジション
 押え： ダーニング押え 9番
 またはボタンソーイング押え 18番（オプション）

ボタンを縫う

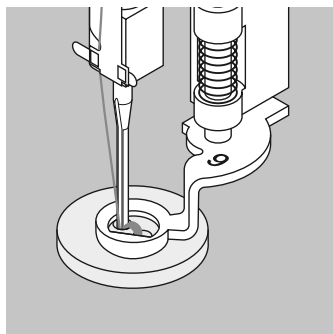
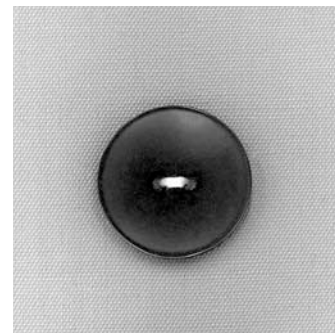
- ・ 二つ穴、四つ穴のボタンを縫います
- ・ 飾りに縫い付けるボタンは足をつける必要はありません。
- ・ ボタンソーイング押え 18番を使うと足の長さを自在に調節できます
- ・ マッチ棒や爪楊枝を使っても足をつけられます

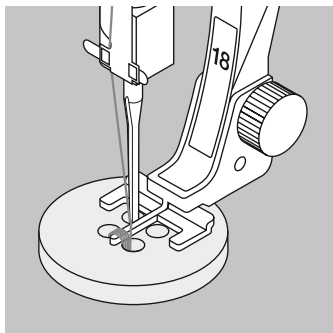
9番押えを使ってボタンを縫う

- ・ ボタンソーイングステッチを選びます
- ・ 上糸と下糸を手で持って止め縫いをします
- ・ はずみ車を回してボタン穴の距離に振り幅を合わせます
- ・ 縫います
- ・ ミシンは自動的に止まります

糸の始末

- ・ 自動的に留め縫いされていますので糸は切り落としてください
- ・ さらに確実にするならば、糸端を生地の裏へ通して結びます





18番押えを使ってボタンを縫う

- ・足の長さを押えのねじで調節してセットします
- ・ボタンソーイングステッチを選びます
- ・上糸と下糸を手で持って止め縫いをします
- ・はずみ車を回してボタン穴の距離に振り幅を合わせます
- ・縫います
- ・ミシンは自動的に止まります

糸の始末

- ・自動的に留め縫いされていますので糸は切り落としてください

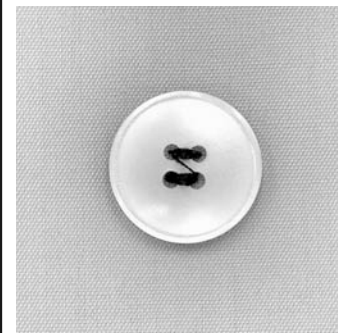
足の始末

- ・足の周りに糸を巻いて補強します
- ・糸端を生地の裏へ通して結びます

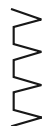
👉 ヒント

四つ穴ボタン

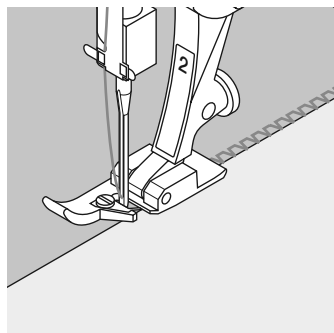
- ・手前側のボタン穴を先に縫います
- ・次にボタンを手前に移動させて、
- ・後ろ側のボタン穴を縫います
- ・斜めに現れている糸は切り取りま
す



バリオーバーロック縫い



- ステッチ： バリオーバーロック No. 3
針： 生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： ソーイングポジション
押え： オーバーロック押え 2 番、
または標準押え 1 番



オーバーロック押え 2 番は特別にオーバーロック用にデザインされた押えで、押えの裏側のピンが布端を巻き込まないように工夫されています。

用途

シルクニットやインターロック等の薄く柔らかい伸縮地に適しています。

縫ってみる

- ・ 裁ち目を押えのピンの下側に沿わせるようにして進めます。
- ・ 布端が巻かないように縫うには、ピンを布端の外側に合わせます。



ヒント

ニット地およびジャージー

- ・ 生地を傷つけないよう、新しいボールポイント針を使用して下さい。

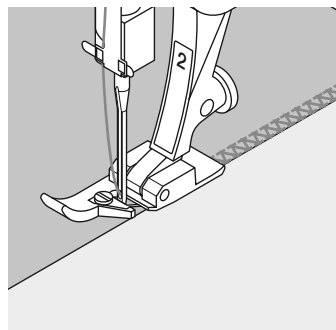
伸縮地を縫う場合

- ・ 必要に応じて、ボールポイント針（130・705H-S）をご使用下さい。針先で繊維を傷つけることなく縫えます。

ダブルオーバーロック縫い



- ステッチ：ダブルオーバーロック No. 8
 針：生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
 糸：コットンまたはポリエステル糸
 送り歯：ソーイングポジション
 押え：オーバーロック押え 2 番
 または標準押え 1 番



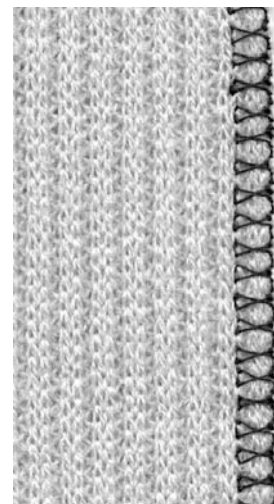
オーバーロック押え 2 番は特別にオーバーロック用にデザインされた押えで、押えの裏側のピンが布端を巻き込まないように工夫されています。

用途

目の粗いニット地やジャージーにオーバーロック縫い

縫い方

- ・オーバーロック押え下側のピンの部分に裁ち目を合わせるようにして、進めます。
- ・布端が巻かないように縫うには、ピンを布端の外側に合わせます。


 ヒント

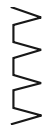
ニット地やジャージ

- ・生地 の 損傷を避けるため、新しい針をご使用下さい。

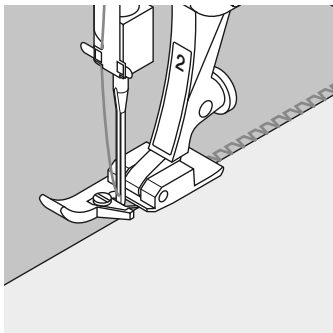
伸縮地を縫う場合

- ・必要に応じて、ボールポイント針（130・705H-S）をご使用下さい。針先で繊維を傷つけることなく縫えます。

オーバーロック縫いによる襟つけ



- ステッチ： バリオーバーロック No.3
 針： 生地に合わせて選びます（57 ページを参照）
 糸： コットンまたはポリエステル糸
 送り歯： ソーイングポジション
 押え： オーバーロック押え 2 番
 または標準押え 1 番



オーバーロック押え 2 番は特別にオーバーロック用にデザインされた押えで、押えの裏側のピンが布端を巻き込まないように工夫されています。

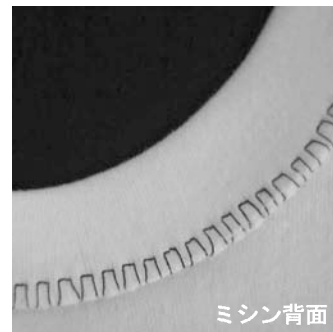
オーバーロック縫いを使った襟つけ
 薄手のジャージ地に適しています。

準備

- ・ 襟周り（リブ）を半分に折り
- ・ 襟周りの表側に待ち針としつけをします。

縫い方

- ・ 布端にバリオーバーロックをかけます。
- ・ その際、布端を押えのピンに沿うようにガイドします。



ミシン背面



ミシン前面

👉 ヒント

針下位置停止機能

- ・ この機能を使えば、襟周りを揃えたりするのに途中でミシンを止めても針が生地に刺さったまま残るので、ずれが起きりません

飾り縫いによる襟つけ



- ステッチ： ネットステッチ No. 19
 針： 標準針、ボールポイント針、必要ならば ストレッチ針
 糸： コットンまたはポリエステル系
 送り歯： ソーイングポジション
 押え： 標準押え 1 番

飾り縫いで襟付け

あらゆる種類のジャージ地（木綿、ウール、化繊および合繊）に適しています。

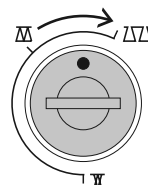
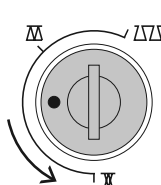
準備

襟周りを 1 cm 内側に折ります。

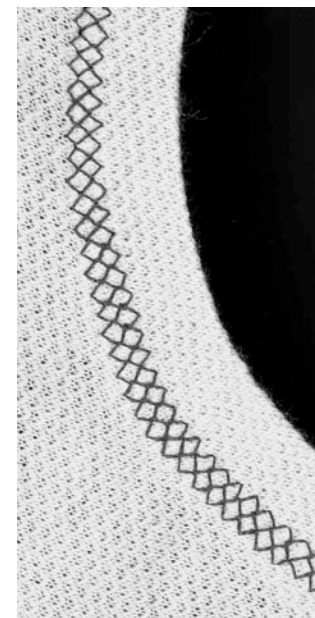
縫ってみる

- ・ 表側から襟の端に沿って縫います
- ・ 裏側で縫い目からはみ出た縫い代を切り取ります

送りバランス微調整



ステッチが広がってしまう場合： ステッチが詰まり過ぎる場合



ヒント

針下位置停止機能

- ・ この機能を使えば襟縫いの途中でミシンを停止しても、針が生地に刺さったまま残るので、ずれがおこらず便利です

ご注意：

送りバランス微調整を使ってボタンホールを縫った後、送りバランス微調整つまみを標準の位置に戻すのを忘れないように。

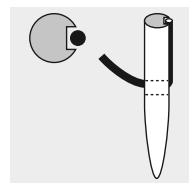
ミシン針に関する重要事項

ミシン、針そして糸

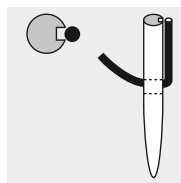
ベルナミシンは130/705Hというタイプの家庭用ミシン針を使用します。

針と糸

市販されているミシン針は、たいてい70番（8番）～120番（18番）です。針が細いほど、番号も小さくなります。右の表は、どの糸にはどの針が最適かを示しています。針は、必ず糸に合ったものを選びましょう。不測のトラブルを避けるため、ベルナ純正針のご使用をお勧めします。



縫うとき、糸は、針の溝に納まらなければなりません。

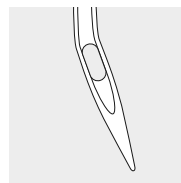


糸に対して針が細すぎると、糸は溝に納まらず、縫い目が乱れます。

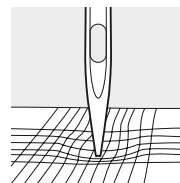
針（欧米式） （日本式）	70 10	80 12	90 14	100 16	110～120 18～20
繕縫い用糸	○	○			
刺しゅう糸		○			
コットン		○	○		
化繊糸		○	○		
太糸、化繊糸			○	○	
ボタンホール 飾り縫い糸				○	○

針と布 針の状態

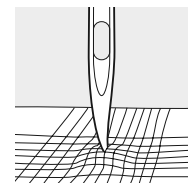
針は、必ず正常な状態にあるものを使用して下さい。
次のような針をご使用になりますと、縫い目を乱す原因となります。



曲がった針

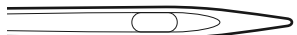


先が欠けた針



先がつぶれた針

布地に合わせて、針を使い分けることにより、大変縫いやすくなります。
ベルニナでは、様々な針を用途に合わせて取りそろえております。

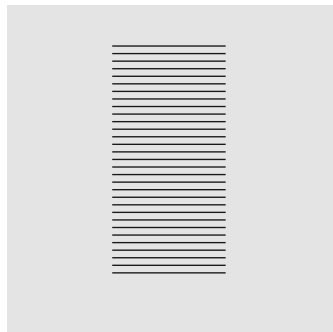
針一覧表	針の記号	針先形状	用途	実際の形状
標準針	130/705H	標準の針先	汎用針、化繊や天然繊維の織地、例えば、リネン、シフォン、オーガンジー、ウール、ベルベットなど	
	130/705H-SES	中細ボールポイント	絹、化繊、綿、薄地のウール地、薄手のニット地	
	130/705H-SUK	中太ボールポイント	化繊や天然繊維の厚手のニット地	
	130/705H-S	中太ボールポイント	特殊な伸縮地用	
特殊針	130/705H-J	極細先	綾織、作業衣、麻、デニム、キャンバス地。目のつんだ生地のみ。	
	130/705H-LR + H-LL	カッティングポイント	各種天然皮革、合成皮革、ビニールコーティング地、プラスチック	
二本針	130/705H-DO	針間隔（ミリ） 1.6/2.0/2.5/3.0/4.0	伸縮地のヘム縫いに、ピンタック、飾り縫い、キルティング	
三本針	130/705HTRI	巾 2.5/3.0 ミリ	飾り縫い、キルティング	
ウイング針	130/705H	巾 2.0 ミリ	綿ローンや綿オーガンジー等の織りのゆるい薄地でヘムステッチやレース付け	

送り歯と布送り

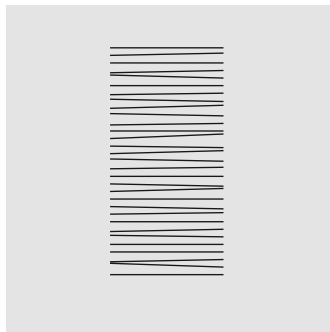
送り歯と縫い目の長さ

送り歯は、通常一針毎に一回ずつ布送りをします。この一回の布送りは、送りダイヤルで調節した長さです。特に細かい縫い目の場合は、一回の布送りの量もわずかですので、フットコントローラーを一杯に踏み込んでも、布送りの速度はゆっくりしたものとなります。ボタンホールやサテンステッチおよび飾り縫い等は、通常、送りを細かくして縫います。

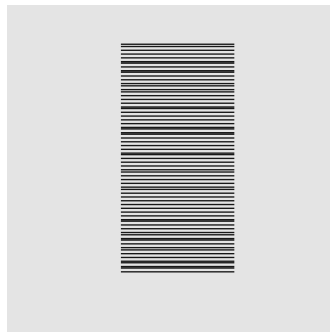
重要事項



布送りは、均等にしなければなりません。

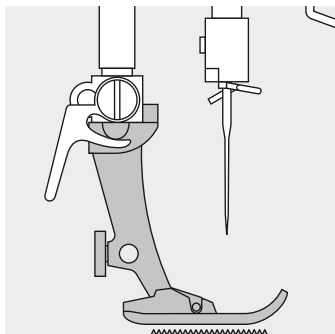


布を手で引っ張ったり、押し込んだりすると、縫い目にすき間ができます。

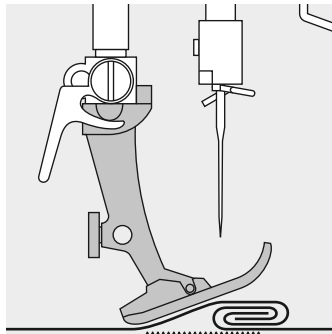


布を手で押えてしまうと、縫い目が重なってしまいます。

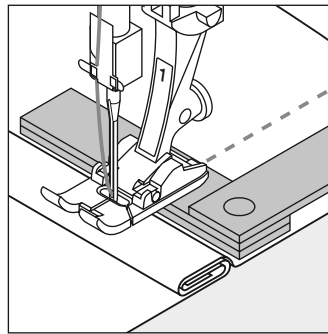
送り歯と布送り



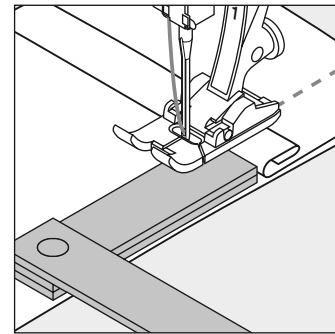
送り歯は、押え金が水平になっている場合、もっとも効果的に働きます。



薄地と厚地のつなぎ目を縫う時に、押えが斜めになってしまうと、送り歯は布をとらえることができず、布を送らなくなります。

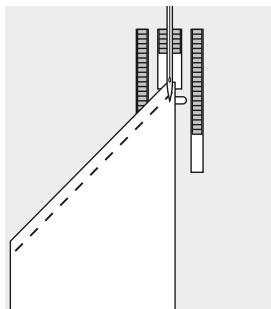


その場合には、図のようにして、高さ調整板を必要な枚数、押えの下に置くようにします。



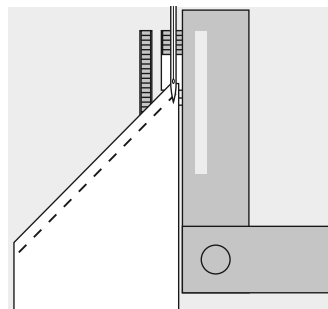
押えの手前で高さを調整する時は、必要な枚数の高さ調整板を押えの右下側に置きます。布の段差がなくなるところまで縫い進んだら、高さ調整板を外します。

送り歯とコーナーの縫い方



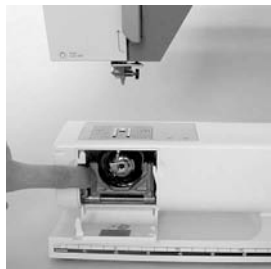
左右の送り歯は、少し離れた位置についています。これはジグザグ縫い等、針が左右に振れる場合に備えてのことです。

角を縫う場合は、送り歯に乗る部分はほんの少しなので、送りがうまくいかない場合があります。



そのような場合には、布端に高さ調整板を当てるようにすると、送りが正常に戻り、縫い目がきれいになります。

クリーニングの方法



ミシンを極端に気温の低い部屋においている場合、使用の1時間位前から通常の気温の部屋に移しておいて下さい。

クリーニング

ご使用後、針板の下にたまった糸の毛羽やくずを掃除してください。

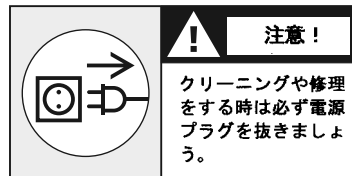
- ・電源をオフにし、
- ・押えと針を外して、
- ・開閉カバーを開きます。
- ・針板の右後ろ隅を人差し指で強く押さえて針板を浮かせます。
- ・持ち上げて外します。
- ・ブラシで掃除し、針板をもとに戻します。

かまの掃除

- ・電源をオフにし、ポビンケースを取り出し、中釜ストッパレバーを左側に押します。
- ・中釜押えカバーといっしょに黒い樹脂の中がま押えを手前に倒します。
- ・中釜を取り出します。
- ・大釜レース（溝）の回りをブラシや布で掃除します。その際、尖ったものを使用しないこと。
- ・中釜を戻し、中がま押えと押えカバーが確実にストッパレバーにはまるように閉じます。
- ・中釜が正しくセットされたかどうかは必ず車を手で回してチェックします。ポビンケースを戻します。

液晶画面の掃除

濡れたソフトクロスで拭きます



クリーニングや修理をする時は必ず電源プラグを抜きましょう。

注油について

当ミシンは、通常のご使用では注油を必要としない新システムのかま機構を採用していますが、かまの掃除をされた後に、純度の高いミシンオイル1～2滴を釜の周辺に注油されることをお勧めします。

注油後は生地に油シミのつく可能性がありますので、はぎれで試し縫いしましょう

重要

絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わない事

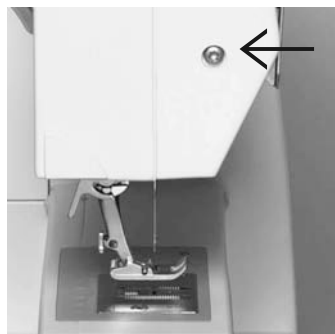
注油について

2-3滴のオイルを大釜の溝に注油します。

糸を通さずにミシンを2-3分運転してください。

余分なオイルを取り除いて、生地に染みをつけないように注意します。

ソーイングライト



電球の交換

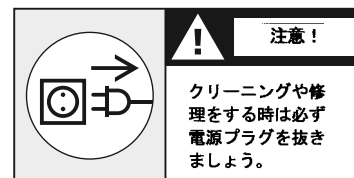
- ・電源をオフにしてから、
- ・←の部分のネジをゆるめます。



- ・カバーを少し持ち上げるようにして上から外します。



- ・電球を新しいものと交換します。
- ・カバーを戻し、ネジをしめます。



電球は、ベルニナ純正の
12V5W W2.1x9.5d のもの
を使用して下さい

使用直後の電球は大変熱くなっています。冷めてから電球を交換してください。

“安全にご使用いただくために”をご参照下さい。



「安全にご使用頂くために」の項をご参照下さい。

ソーイングランプの交換

- ・アーティスト200にはインバーター蛍光灯ソーイングランプが取り付けられており、長時間蛍光灯の交換なしでご使用いただけます。

ご注意

交換に当たっては、必ず正規販売代理店にご相談ください。

トラブルの原因と対策

チェックポイント

- ・ 上糸、下糸が正しくかかっていますか。
- ・ 針が正しくとりつけられていますか。(平らな部分を後ろ側にします。)
- ・ 針は、針と糸の一覧表を見て、正しいものを使用して下さい。
- ・ ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。外がまの掃除も忘れずに。
- ・ ボビンケースの糸みちのごみを取り除いて下さい。

上糸切れの原因

- ・ 上糸テンションが強すぎる。
- ・ 針は純正をお使いですか？
- ・ 針が正しく平らな方を後ろ側にセットされていますか？
- ・ 針先がつぶれていたり、または曲がっていませんか？
- ・ 糸の品質が良くない。(こぶがあったり、ささくれていたり、古くて乾燥しすぎている等)
- ・ 針板の糸穴やかまのけん先に傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。

下糸切れの原因

- ・ 下糸テンションが強すぎる。
- ・ ボビンケースの中で、糸がからまっている。ボビンを取り出し、チェックしてください。
- ・ 針板の針穴に、傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。
- ・ 針先がつぶれている、または曲がっている。

故障かな、と思ったら次の要領でまずお調べ下さい。

目飛びの原因

- ・ 針が正しくない。(130/705Hの家庭用ミシン針を使用して下さい。)
- ・ 針先がつぶれているか、曲がっている、または正しくセットされていない。(針は一杯まで差し込んで止めて下さい。)
- ・ 布地に合った針を使っていない。(24頁の表を参照して、適当な針を選んで下さい。)

針折れの原因

- ・ 針の止めネジの締め方が十分でない。
- ・ 縫い終わった後、布を手前へ引いてしまった。
- ・ 厚地を縫っていて、針が布地に刺さっている状態で布を押してしまった。
- ・ 質の悪い糸を使っていた。(糸よりが均一でない、こぶがある等。)

縫い目が乱れる原因

- ・ 上糸調節皿に糸屑が残っている。
- ・ ボビンケースのテンションばねの内側に、糸くずが残っている。
- ・ 下糸をボビンケースのつの穴に通したままになっている。
- ・ 押え金に糸がからまっている。
- ・ 糸かけが正しくない。(上糸と下糸をチェックして下さい。)
- ・ 糸駒押えのサイズは

ミシンが回転しないか、高速にならない原因

- ・ 下糸巻き装置がオンになっている。
- ・ 電源コンセントが正しく入っていない。
- ・ 電源スイッチがオフになっている。
- ・ 室温が低すぎミシンが冷え切って十分に機能しない。

62 索引

索引

ア	—	カ	22	タ	—
アクセサリボックス	7, 8, 9	返し縫い	4-7	ダイヤルテンション	5
アタッチメント用ねじ穴	5	各部の名称	5, 7	高さ調節板	8
アタッチメント用カバープレート	5	釜カバー	5	ダブルオーバーロック	30, 52
イ	—	キ		ダーニング	36
糸	55-58	機能の説明	22	ダーニング用押え	32
糸ガイド	5	キャリングハンドル	7	チ	—
糸切り	7, 11, 17	ク		直線縫い	30
糸立て棒（水平）	7	クリーニングの方法	59	注油	59
ウ	—	クリヤーボタン (clr)	5, 23	ツ	—
上糸案内	5	シ	—	繕い縫い(自動)	36
上糸テンションの調節	19	ジグザグ縫い	30	繕い縫い押え	32
上糸のかけ方	16	下糸の巻き方	12	繕い縫い用アタッチメント取り付け穴	7
エ	—	下糸の引き上げ方	17	テ	—
液晶画面	5, 20, 59	しつけ縫い	34	電源コード	5, 10
えり付け	53, 54	自動下糸巻き装置	31	電源スイッチ	5, 10
オ	—	自動留め縫い	33	電源プラグ差込み	5
送り調節ボタン	5	#ボタン	5, 22	天びん	5, 7
送り長さ	21	ス		天秤安全カバー	5
送り歯	18, 57, 58	垂直糸立て棒	5, 15	ト	—
送り歯ドロップ操作ボタン	5	ステッチメモリ	23	留め縫い	30, 33
送りバランス微調整	5	スーパーストレッチ	30, 23	トラブルの原因と対策	61
送りバランス微調節ダイヤル	5	スピード 1/2	5, 22	トリプルステッチ	30
押え上げレバー	7	セ	—	トリプルジグザグステッチ	30
押え金	5	前面糸掛け	5	ドロップフィードつまみ	5
押えの交換	15	ソ	—	ネ	—
オーバーロック押え	32	ソーイングライト	60	ネットステッチ	31
		ソーイングテーブル	5		

ハ	—	ホ	—	ミ	—
はずみ車	5	ボタンソーイング	49-50	ミシン針	8
パッチワーク押え	32	ボタンホール	38-48	ミシンカバー	8
鳩目ボタンホール	42	芯入り	44	メ	—
バランス	48, 54	高さ調節プレート	8	メモリー	23-26
針	55-58	はと目	31, 42	メモリーボタン	5
針板	5, 18	標準	31	メモリー機能	23
針基線	21	マニュアル式	48	モ	—
針基線選択ボタン	5	保存	32	文字	23
針上下停止機能	5, 22	ボタンホール押え	32	文字選択ボタン	5, 22
針の交換	14	ボタンホールの変更	48	模様選択ボタン	5
針元返し縫いボタン	5, 22	ボビン	12	模様反転ボタン	5, 22
バリオーバーロック	30, 51	ボビンケース	14	ユ	—
針上下停止	22	マ	—	ユニバーサルステッチ	30
針止め	5	まつり縫い	35	ラ	—
ヒ	—	まつり縫い押え	32	ランニングステッチ	30
ひざ押え上げレバー	11			レ	—
ひざ押え上げレバー差込	5			連続返し縫い	22
一模様縫い機能	5, 22				
標準押え	32				
標準ボタンホール	40				
フ	—				
ファスナー押え	32, 37				
ファスナー付け	37				
フットコントローラー	10				
フットコントローラー用コンセント	5				
振り巾調節ボタン	5, 21				

2	安全にご使用いただくために
4	各部の名称
10	準備する
21	ミシンの基本操作
30	各種のステッチ
33	押え金を選ぶ
34	自動留め縫い
35	しつけ縫い
36	まつり縫い
37	繕い縫い
38	ファスナー付け
39	ボタンホール縫いで大切なこと
50	ボタンを縫う
52	バリオーバーロック縫い
55	飾り縫いによる襟つけ
56	ミシン針、糸、布送り
60	日常の点検保守の仕方

